ISSN 1344-476X

財団法人 東洋文庫年報

平成14年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 平成14年度

目次

Ⅰ 平成14年度の東洋文庫 …… 1

Ⅱ 図書館事業 …… 4
1. 資料の収集 …… 4
2. 資料の整理 …… 5
3. 資料の利用と複写サービス …… 7
4. 書庫資料の見学と研修 …… 10
5. 資料の保存整理と複製 …… 11
6. 業務の機械化 …… 12
7. 書庫内資料と書架スペース …… 13

Ⅲ 研究事業 …… 14
1. 調査研究 …… 14
i 日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究 …… 14
ii 一般調査研究 …… 19
iii 特別調査研究 …… 22
iv その他の平成14年度研究助成金による事業 …… 23
v 研究委員会 …… 28
2. 学術図書出版 …… 30
3. 講演会 …… 31
4. 研究会（東洋文庫談話会） …… 32
5. 学術情報提供 …… 32
i 研究者養成 …… 32
ii 研究者の交流および便宜供与のサービス …… 33
iii 研究会等への会場提供サービス …… 37
iv 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス …… 37
v 参考情報提供サービス …… 37

6.　職員の研究業績……38
付表「財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧」……53
平成14年度研究部運営委員会の開催……56

Ⅳ　業務報告……57
1.　総務報告……57
2.　人事報告……59
3.　会計報告……60

Ⅴ　役職員名簿　……62
1.　役員……62
2.　東洋学連絡委員会委員……63
3.　名誉研究員……63
4.　職員……64
5.　臨時職員……68

Ⅵ　財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業　……69
1.　ユネスコ協力事業……69
2.　学術情報事業―アジア・北アフリカ人文・社会科学関係―……69
3.　コンピュータネットワーク事業……72
4.　重要文献の研究・保存事業
―アジア重要文化財（文献）の研究・保存―……73
5.　業務報告……74
6.　役職員名簿……78

Ⅰ　平成14年度の東洋文庫

平成14年度において東洋文庫が実施した諸事業の経過、および内容の要旨は次の通りである。

本年度内に生じた役員・職員の異動について述べるに先立ち、田中正俊元理事が平成14年11月４日、また江上波夫東洋学連絡委員が同じく平成14年11月11日に他界された訃報に触れなければならない。田中元理事の理事への就任（昭和56年６月）は、辻直四郎理事長の逝去（昭和54年９月）のあと、榎一雄専務理事のもとに役員諸氏が補任されたときのことである。以後、榎理事長の時期（～平成元年11月）、および北村甫理事長の時期（平成２年４月～平成13年６月）にわたる22年間、理事としてまた一時期は図書部長を兼務されて各種事業の運営に尽力され、随時に大局的な立場からの意見を表明しつつ東洋文庫に対して真摯な情熱を注いでこられた。江上波夫教授が東洋学連絡委員（昭和33年発足）に就任されたのは昭和40年４月であり、その前月に他界された梅原末治委員のあとを承けてのことと思われる。この委員会は東洋文庫と日本の東洋学界との間の緊密な連絡を目的とするものであるが、江上教授は以後38年間にわたり、ユーラシア考古学・北方民族史という重要な研究分野の学術代表者として委員を担任され、事業計画の審議・報告に臨席され、貴重な助言を寄せてこられた。両教授の永年にわたる絶大なご貢献を深く謝し、ご冥福をお祈りする次第である。

役員の異動としては、財政の全般的な立て直しを極力推進しなければならないという急務に関わって、６月４日の理事会において、総務部長の原啓芳理事を総務部長兼務のまま専務理事に就任願い、理事長を補佐してその衝に当たることが諮られ了承された。また12月３日の理事会では、茅野静逸監事が三菱金曜会事務局長を退任するため、その交替として、同会事務局長に就かれた東條和彦氏を以て監事に新任することが了承された。茅野前監事が白石元良元監事のあとを承けて、監事としてまた三菱金曜会と東洋文庫との間の調整に行き届いた貢献を致されたことは、感謝にたえない。ほかに役職指定の評議員のうち、慶応大学の鳥居泰彦塾長より安西裕一郎塾長への交替（６月）が行われた。職員の異動としては、ユネスコ東アジア文化研究センターが平成15年３月31日をもって終結したことにともない、同センター職員の大井剛、飯田隆子、設楽靖子、坂本葉子、近藤敦子の５氏が同日を以て退職した。多年のご尽力に対して深謝を捧げる次第である。図書部では志茂碩敏氏退職のあとを承けて、国立国会図書館員の大沼宜規氏が平成14年４月１日に着任した。

平成14年度の事業は、昨年度にその緊急性と重要性において、集約的かつ早急に取り組むべき案件として掲げた三件の課題、すなわち（１）附置ユネスコ東アジア文化研究センターの円満・円滑な終結処理、（２）財政の健全かつ適正な運営、（３）80周年を記念する事業への取り組み、を中心としてその具体化を推進した。このうちセン

ターの終結業務は、本年度内を時限とする案件であるが、問題は不可分にそのあとを承けて生ずる研究体制全般の再組織・抜本的な刷新に直接につながるものであった。構想の出発点は「東洋に関する図書を収集し、東洋学の研究およびその普及をはかる」（寄付行為第２条）と規定する事業目的のなかにあることはいうまでもないが、単なる拡充・拡延を志向するにとどまらず、現代世界において痛感されているアジア理解・アジア知識の増進に対して、これに正しく即応できるような研究の充実・図書資料の充実の両者を、有機的に推進することにその焦点を置いた。このため、本年度は以上の（１）～（３）と並んで、（４）研究組織の抜本的な刷新、および（５）資料・研究の公開普及の一翼をなす電算化の推進にむけても努力を注いだ。

（１）ユネスコセンターの円満・円滑な終結において、緊急の問題の一つは、５名の退職者に対する措置にからむものであった。退職金については、連年の財政逼迫のなかではあるが、東洋文庫運営規則等の条文に照らして、総額の上限を32,000千円とする退職者への手当を東洋文庫側において負担することを決断し、この議題を理事会（６月）に諮って承認をえた。これに先んじて共同の「ユネスコセンター終結準備委員会」を設け、総力を挙げる形で委員を組織し、会議を重ねながら実務を進めた結果、帳簿・記録の整理、刊行物・所蔵物件・什器類の整理ないしは売却・移管に及ぶ作業を年度内に終え、平成15年３月４日には、霞山会館で終結の会を催した。旧職員のうち、大井剛氏は財団法人ユネスコアジア文化センターに転職した。なお石井米雄センター所長については、平成15年４月１日以降、研究顧問への就任を委嘱し、部長会メンバーとして新しい研究体制の推進・運営につき多方面の助言を仰ぐことになった。

（２）の財政の健全化については、前年度につづき、事業収支の項目ごとの経年推移を精細に点検するとともに、節減のできる項目を逐一検討し、営繕費および事務費などの節減、土曜日の隔週開館の停止などを実施した。上記のユネスコセンター終結処理に伴い、本年度は特殊要因として最終的に29,000千円の整理金を負担することとなったが、前年度に受贈した山本家よりの寄付金、本年度に受贈した辻直四郎家ご遺族よりの寄附金などの経常外の収益金もあり、累年赤字額を圧縮するために設定した目標値に対して、相応な財政好転の兆しが生じた。

（３）80周年事業については、「80周年記念事業推進委員会」を設け、理事長、専務理事、３部長以下総務、研究部、図書部の要員を委員に配置し、専務理事を実行の推進者として計画を具体化した。先ず80年史の編纂に関しては、総頁、章別・資料集別の構成、印刷数、完成目処、各章の執筆分担、特別寄稿者の選定と依頼、総経費の準備、の細目がきまり、順調に進捗している。記念展示会に関しては、千代田区当局が江戸開府400年記念事業を新しい丸ビル内の会場で催すという企画において、東洋文庫所蔵品の展示の可能性につき同ビルを所有する三菱地所株式会社を通じて打診があり、展示の立案および運営について田仲図書部長・原専務理事が、千代田区当局、日本経済新報社、その他三菱金曜会などの関係団体と協議を重ね、平成15年12月23日よ

り、翌月12日まで催すこと、テーマ、出陳内容、会場の構成の細部がほぼ決定した。さらに定例の「東洋学講座」を〈80周年記念東洋学講座〉と命名し、本年度より春季は岩崎文庫を、秋季はモリソン文庫を主題として、東洋文庫の誇るコレクションの紹介、普及、意義付けをめぐる講演会を先行開催し、盛会であった。

（4）研究体制を刷新する企画は、具体的には文部科学省より東洋文庫の申請に対して助成が行われてきた「特定奨励費」項目、およびユネスコセンターに対する「同上」項目の補助金を統合して、〈激変する現代アジアの諸問題の解明〉を目標とする諸学融合的な研究を進め、資料を構築する体制を新設し、合わせて従来からの基礎研究をさらに活性化する方向で議論を集約した。すなわち、「東洋学文献の収集・研究および東アジア地域の総合的文化的研究に関する事業」と位置づけることとし、目的・内容・経費請求にわたる原案を作製したのち、その骨子を研究部運営委員会に提示して意見を徴したのち、12月3日の理事会に諮議して承認を得て、平成15年度4月初に予定される文部科学省への事業計画書の申請を準備した。

（5）以上のほか、本年度に努力を注いだ重要な事業として電算化に関連する組織体制の整備および作業の推進がある。東洋文庫内において主要な電算化業務を統括し審議・議決する母胎が、部長会メンバーより成る電算化委員会であることは従来通りである。その委嘱をうけて研究部・図書部にかかわるデーターベース化を推進するものとして、新たに田仲図書部長を統括者とする「データベース小委員会」を発足させ（平成14年4月）、年数回の委員会において、研究・情報資料のDB化、図書・書誌情報のオンライン化、学術情報公開促進に関わる補助金の申請と運用、などの案件に対処した。また原専務理事を統括者とする「ホームページ小委員会」を発足させ（平成14年4月）、ほぼ各月に委員会を開いてホームページによる情報の公開、その更新に対処した。前者では、本年度はとくに書誌情報のオンライン化を精力的ににすすめる一方、ユネスコセンターが作製した情報を合わせて、東洋文庫内における電算化情報の作製と公開を一元的に進める体制をつくった。「ホームページ小委員会」も同じくユネスコセンター作成の情報を吸収するとともに、業務、研究・出版活動の紹介、図書館の案内、書誌検索案内、公的な情報の開示を行っている。なお、図書の閲覧に付帯して、東洋文庫を来訪して文献・資料を閲覧する人々の便宜の増進を考えて、「資料閲覧申込書」の記載書式や申し込み要件を検討して、実情に合う内容に改めた。

（斯波義信）

Ⅱ 図 書 館 事 業

1．資 料 の 収 集

(1) 資料購入

本年度資料購入費の支出総額は18,458,210円で，各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書（冊）	洋書（冊）	計（冊）
一般調査研究資料	570	875	1,445
一般研究資料	145	67	212
中央アジア特別研究資料	122	403	525
東アジア特別研究資料	915	1	916
西アジア特別研究資料	4	884	888
マイクロ資料	33	0	33
チベット特別研究資料	0	24	24
近代中国特別研究資料	566	79	645
計	2,355	2,333	4,688

主な購入図書としては，以下のものがある。

新編中国地方志	305冊
続修四庫全書　巻1541－1800	260冊
中国民族問題報告書コレクション	149冊
Prof.C.E.Bosworth 旧蔵　アラビア関係研究書コレクション	129冊
Historical Materials for Tibetan Literature. set 3	32冊
トルコ発行資料	248冊
パキスタン発行ウルドゥ語等資料	621冊
エジプト発行アラビア語資料	423冊

(2) 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区　　分	受　　贈			寄　　贈		
	和漢書（冊）	洋書（冊）	計（冊）	国内（冊）	国外（冊）	計（冊）
単　行　本	1,273	7,722	8,995	1,015	673	1,688
定期刊行物	2,463	898	3,361	2,190	1,521	3,711
非図書資料	0	0	0	0	0	0
計	3,736	8,620	12,356	3,205	2,194	5,399

主な受贈資料としては、以下のものがある。

中村菊之進氏寄贈資料	57冊
北村甫前理事長寄贈　チベット関係資料	789冊
山本達郎氏寄贈　東南アジア関係資料	156冊
イスラーム地域研究第６班収集資料	7,251冊
民族文化推進会寄贈　韓文資料	65冊
中華人民共和国大使館文化処寄贈　西蔵関係資料	28冊
今堀百合子氏寄贈　今堀誠二氏学位論文（原本）他	３冊
井上四郎氏寄贈　井上準之助旧蔵洋書	39冊

資料室では上記以外に重複図書等の有効活用を図るため、内外の諸機関に交換用の図書リストを提供している。

2002年度は１機関に対して交換リストを送付した。

交換先　　東京都立中央図書館
送付リスト　中文図書　100点
送付冊数　　54点

(3) 蔵書数

収蔵する蔵書総数は884,775冊で、和漢書502,585冊、洋書352,411冊、複写資料29,779冊である。

2. 資料の整理

(1) 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書　　3,237冊

欧米語図書　　1,904冊
アジア諸言語図書　　1,569冊

整理した主な図書

（1）　新編中華人民共和国地方志叢書　　80冊
（2）　続修四庫全書　巻1301－1540　集部　　240冊
（3）　西安碑林全集　巻15－25函　　11函
（4）　嘉慶道光両朝上諭档（全）　　55冊
（5）　中国明朝档案総匯（全）　　101冊
（6）　甘粛蔵敦煌文献（全）　　6冊
（7）　北村甫氏旧蔵書　　175冊
（8）　中村菊之進氏旧蔵書　　55冊

（2）　目録の刊行

刊行した冊子目録は以下のとおりである。

『東洋文庫新着図書目録』　第50号　平成15年３月刊　Ｂ５判　110頁

（3）　雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文123タイトル、欧文14タイトルである。

	タイトル数		冊　数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	691	193	2,421	883
購入	128	78	751	210
小計	819	271	3,172	1,093
計	1,090		4,265	

（4）　新聞

本年度は前年度同様18種（何れも中文）を受入れた。

3．資料の利用と複写サービス

(1) 閲覧サービス

本年度は、カウンターの配置を替えるなど閲覧室の大幅な模様替えを行うとともに、開架資料増加計画の実施にむけて閲覧室内の書架を増設した。また、閲覧室内に端末器を２台設置したことで、一部所蔵資料のコンピュータによる検索が可能となった。

本年度、閲覧証の新たな交付は186名で、内訳は教職員38名（外国人13名）、研究機関関係者21名（外国人10名）、大学院生39名（外国人８名）、大学生80名（外国人９名）、その他８名であった。

閲覧開館日は232日、利用者数は2,938名、利用資料数は44,522冊で、詳細は下記のとおりであった。

なお、東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ972名、2,821冊であった。

開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比（△印は減）
平成14年 4月	(日) 20	(人) 209	(人) 11	(人) 21
5	20	220	11	△34
6	19	207	11	△15
7	22	255	12	△16
8	21	300	15	△63
9	18	255	15	△12
10	21	316	16	8
11	18	241	14	△152
12	18	224	13	△95

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比 (△印は減)
平成15年 1	18	180	10	△44
2	18	256	15	18
3	19	275	15	14
計	232	2,938	13	△370

閲覧カウンター出納冊数

	和　書		漢　書		洋　書		合　計		日平均	昨年同月比
	部　数	冊　数	部　数	冊　数	部　数	冊　数	部　数	冊　数		(△印は減)
平成14年 4月	118	244	354	2,332	192	342	664	2,918	146	△465
5	178	568	379	2,459	156	260	713	3,287	165	△431
6	140	454	305	1,669	199	354	644	2,477	131	△243
7	126	336	470	3,666	159	341	755	4,343	198	10
8	169	321	671	4,917	289	497	1,129	5,735	274	△1,344
9	156	341	501	4,514	159	279	816	5,134	286	552
10	162	345	560	4,033	226	572	948	4,950	236	1,452
11	139	295	480	2,443	143	300	762	3,038	169	△2,118
12	156	331	411	3,051	154	280	721	3,662	204	△1,072
平成15年 1	84	172	328	2,252	83	207	495	2,631	147	△505
2	138	294	407	2,453	219	444	764	3,191	178	△1,655
3	133	337	324	2,049	289	770	746	3,156	167	△287
計	1,699	4,038	5,190	35,838	2,268	4,646	9,157	44,522	192	△6,106
比　率	9.10%		80.50%		10.40%		100%			

(2) 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

マイクロ・フィルム

申込件数	紙焼用撮影齣数	紙焼提供枚数	フィルム提供齣数
405	28,031	37,023	22,590

電子複写

申込件数	提供枚数
838	59,058

(3) レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて931件であった。

(4) 資料の貸出

博物館、美術館などが主催しておこなう展覧会への資料貸出は３件で、詳細は次のとおりである。

展覧会への資料貸出一覧

	展覧会名	主催者	展覧会会期	開催場所	主な資料と数量
1	日本近世文学会50周年記念企画展「日本をみつけた。江戸時代の文華」	たばこと塩の博物館 日本近世文学会	平成14.6.7 ～7.7	たばこと塩の博物館	『新吉原つねづね草』はじめ全５点12冊
2	平成14年度特別展「菊人形今昔―団子坂に花開いた秋の風物詩」	文京区教育委員会 文教ふるさと歴史館	平成14,10.12 ～11.24	文教ふるさと歴史館	『観物画譜』全２帖
3	江戸開府400年・江戸東京博物館開館10周年記念「大江戸八百八町」展	財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館 株式会社朝日新聞社 株式会社東京放送	平成15.1.5 ～2.23	東京都江戸東京博物館	『江戸循覧記』全３冊

4．書庫資料の見学と研修

申請は28件あり、297名に便宜を計った。その詳細は次のとおりである。
なお、このほかに当日申込の書庫見学が55件139名あった。

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
1	平成14年 5月1日	三菱地所	千代田区長　三菱地所役員	15	書庫及び所蔵資料見学
2	6月11日	川島　真	北海道大学学生	10	〃
3	6月13日	三浦　徹	お茶の水女子大学学生	20	〃
4	6月20日	阪田　敦彦	ダイヤ高齢社会研究財団一行	15	〃
5	6月26日	古藤　友子	国際基督教大学学生	6	〃
6	7月2日	山名　弘史	法政大学学生	28	〃
7	7月3日	田中　明彦	東京大学東洋文化研究所研修生	8	漢籍資料の講義と見学
8	7月3日	佐藤　次高	東京大学学生	15	書庫及び所蔵資料見学
9	7月25日	臼井佐知子	東京外国語大学学生	8	〃
10	7月30日	長野　泰彦	国立民族学博物館員	3	〃
11	7月30日	古川　末喜	東洋史研究者	7	〃
12	7月31日	高田　幸男	明治大学学生	10	〃
13	8月7日	三菱商事	東京都教職員民間企業研修生	9	〃
14	8月29日	宮本　俊澄	和漢古典籍資料研究分科会員	6	〃
15	9月26日	山田　好延	国立国会図書館職員	12	〃
16	10月2日	国際交流サービス協会	パウキ・スクーラソンアイスランド大学学長	1	〃
17	11月6日	佐藤　次高	岩波書店編集者	10	〃
18	11月14日	則武　海源	中国蔵学研究中心一行	16	〃
19	11月21日	国立国会図書館	中国国家図書館代表団	6	〃
20	12月9日	小松　香織	筑波大学学生	17	〃
21	平成15年 1月7日	森田満喜子	学習院女子大学学生	15	〃
22	1月28日	味岡　徹	聖心女子大学学生	12	〃
23	2月5日	三菱広報委員会	メディア対象三菱ゆかりの地見学会一行	17	展示資料見学
24	2月20日	内山　雅生	宇都宮大学学生	10	書庫及び所蔵資料見学
25	3月3日	中林　隆明	図書館文化史研究会一行	11	〃
26	3月13日		京都国際文化センター職員	2	〃
27	3月14日		国立民族学博物館員	1	〃
28	3月20日	三菱電機	木鶏の会一行	7	〃

5．資料の保存整理と複製

原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルム化など他の媒体への交換を行った。作業項目と内容は下記のとおりである。

(1) 漢籍地方志

継続している作業で本年度は、分類記号Ⅱ－11－B－1－39、53、72、82を対象。
裏打ち2,054葉、綴じ直し88冊、帙作製３ケ。

(2) 貴重洋書（OLD BOOKS）

継続している作業で本年度は、分類記号O－2－D－10～O－3－A－69を対象。
清掃、クリーニング、オイリング及びラッパー作製137冊。

(3) その他の書庫内資料

近代中国研究委員会収集資料、目録室資料を対象。
本製本（洋、和）229冊、再製本と簡易製本187冊、帙およびラッパー作製55ケ。
補修4,340枚、クリーニング27冊、整理保全27点。
雑誌合冊製本（外注）1,125冊（参考：前年度は1,026冊）。

(4) 資料の撮影　22,703コマ

対象資料：漢籍稀覯書

(5) 活用フィルム作製のためのポジフィルムの作製　42リール

撮影した漢籍稀覯書のネガフィルムを対象にポジフィルムの作製を行った。

6．業務の機械化

引き続きデータベースの入力作業を継続する一方、インターネット上でのオンライン検索ができるよう作業を進めた。まとまりのある資料群ごとに順次データを公開しており、平成14年度末までに東洋文庫のWebページでオンライン検索サービスを開始した目録データベースは下記の18種である。このうち（11）以下が平成14年度新規公開分である。

（1）　近代日本関係　日本語文献目録　（約6,000件収録）
（2）　東洋文庫所蔵　漢籍資料　（約２万4,000件収録）
（3）　東洋文庫・東文研所蔵　アラビア語図書　（約１万2,000件収録）
（4）　東洋文庫・東文研・東外大所蔵　ペルシャ語図書　（約8,100件収録）
（5）　東洋文庫所蔵　現代トルコ語図書　（約8,400件収録）
（6）　近代中国研究委員会収集　日本文図書　（約１万4,000件収録）
（7）　近代中国研究委員会収集　欧文図書　（約6,900件収録）
（8）　近代中国研究委員会収集　新収図書目録　（約１万件収録）
（9）　辻直四郎文庫　欧文図書　（約7,300件収録）
（10）　モリソン二世文庫・ベラルデ文庫　（約4,000件収録）
（11）　東洋文庫所蔵洋書目録（KOREAの部）（PDF）　（約900件収録）
（12）　榎文庫　欧文図書　（約4,000件収録）
（13）　近代中国研究委員会収集　中国文図書　（約２万7,000件収録）
（14）　オスマントルコ語図書全リスト（PDF）　（約1,400件収録）
（15）　キルギス語図書全リスト（PDF）　（約20件収録）
（16）　ウイグル語図書全リスト（PDF）　（約1,100件収録）
（17）　カザフ語図書全リスト（PDF）　（約240件収録）
（18）　河口慧海将来チベット語蔵外文献　（約500件収録）

蓄積データ件数は予定全体の約７割に達した。入力及び公開にむけての作業を次年度以降も引き続き進めていく予定である。平成14年度からは東洋文庫電算化委員会の下部組織としてデータベース小委員会が発足し、図書事業における業務の機械化は新たな段階を迎えている。

7. 書庫内資料と書架スペース

書庫内資料の排架一覧と新規排架及び主な調整個所

階	1 号 棟	新規排架・調整個所	2 号 棟	新規排架・調整個所
6	朝鮮本、安南本、満州本、蒙古本、和書（XIII～XVII・大型）			
5	Old Books、PB，MS、漢籍稀覯書、岩崎文庫、銅版画、古地図、梅原考古資料、辻文庫、榎文庫Old Books・線装本	マイクロ保管庫	和書（II－XII）	和書（VIII－IX）
4	洋書（I～XII・大型）、モリソン二世文庫、ベラルデ文庫、ウイグル語資料、ロシア語別置資料		トルコ語資料、榎文庫、岩見文庫、ペルシア語資料（P－A－1～P－L1－761）、チベット語資料	トルコ語、ペルシア語資料
3	漢籍（経部・子部・集部・叢書・大型）、日本語・ハングル新着雑誌	漢籍（V）	洋書（XIII～XVII・XIX）、モリソンパンフレット、アラビア語資料、ペルシア語資料（P－L1－762～P－Z－6）	アラビア語資料、ペルシャ語資料
2	漢籍（史部）	漢籍（II）	近代中国研究委員会収集資料	
1	逐次刊行物（日・中・朝・洋新聞）、中国語・欧文新着雑誌	中国語・朝鮮語雑誌	逐次刊行物（欧文）	

本年度の主な資料移動は以下のとおりである。

1．資料排架の適正化をはかるため、2号棟5階の和書の一部（VIII－IX）、1号棟2階、3階の漢籍の一部（II、V）を平行移動した。

2．イスラーム地域研究研究班6が収集した資料の寄贈を受け、書庫内に混排するため、2号棟4階のトルコ語資料を平行移動し、さらに2号棟3階のペルシア語資料の一部（P－A－1～P－L1－761）を2号棟4階に移動するとともに、残るペルシア語資料及び2号棟3階のアラビア語資料を平行移動した。

3．1号棟5階のマイクロフィルム資料をフィルム保管庫に移動した。

Ⅲ 研 究 事 業

1．調 査 研 究

調査研究は、文部科学省国庫補助金および日本学術振興会科学研究費補助金の事業費によるものと、民間学術研究助成事業費あるいは東洋文庫学術情報提供事業費などによるものとにわかれる。

i 日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究

研究成果公開促進費（データベース等）

【名　称】「東洋学総合情報システム」（A Comprehensive Information System for the Asian Studies）［東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信］

【期　間】平成14年度（平成６年度以降採用、14年度採用）

【分　野】東洋学全般［作成分担者・電算化委員会委員；田仲一成図書部長］

【目　的】；

本プロジェクトは、東洋学に関する世界有数の資料を蔵する東洋文庫において、その各種データを有効に活用するために、書誌情報を中心とする各種データをできる限り電子化して提供することを目的としている。

これまでに東洋学に関する電子データは、入力方法の制限や情報化技術の欠如などのために、限定された分野での散発的なものしか見られなかった。本データベースでは、東洋学の専門研究機関としての東洋文庫の次のような特性を活かし、東洋学に関する総合的なデータベース構築を図っている。

（１）国内最大規模で世界でも有数の東洋学関係文献を所蔵している。

（２）各言語・各分野・各時代にまたがる多数の東洋文庫研究員の協力が得られる。

（３）Macintosh を中心としたコンピュータ環境において、アジア諸言語のオリジナルスクリプト、ないしは統一的な翻字でデータ処理を行う技術的な蓄積がある。

東洋学が関わる言語には、中国語、ハングルはもとより、アラビア語、ペルシア語、オスマントルコ語、現代トルコ語、ウイグル語、チベット語、ウルドゥー語、モンゴル語など多種多様であり、多くは特殊な文字で記述されているため、そのデータの電子化は極めて困難であった。欧文や翻字データにしても特殊符合が多用されている。

東洋文庫所蔵の文献は、これら特殊な文字を使用したものから構成されているため、その情報のデータベース化には、これらの特殊文字の処理が必須の条件である。また、研究者がこれらの情報を利用する場合にも、オリジナルスクリプトで入力・表示・検索・ソートすることによって、より正確で理解しやすいデータアクセスを実現することができる。本データベースでは、これらの資料の書誌データをオリジナルスクリプトで入力し、さらには言語の垣根を越えた統一的データベースフォーマットを構築することにより、他のどこにも見られない東洋学の総合データベースを構築しつつある。東洋文庫はこれらアジア諸言語に関する資料を最も大量に所蔵している機関であるので、東洋文庫においてこれらの特殊な言語のデータベース化を完成させることができれば、他のより小規模な機関の所蔵資料についても、東洋文庫のデータをベースにし、それとの差分を入力するだけで容易にそれぞれの機関のアジア諸言語のデータベース化を実現することができる。アラビア文字資料の書誌情報に関しては、従来の東洋文庫の技術およびデータを基に、NACSIS-CATへのアラビア文字資料目録化に大きく貢献している。これらの多様なデータをインターネット上で公開することにより、地方の研究者も東洋文庫所蔵データを実際に東洋文庫に足を運ぶ前に確認することができるため、全国の研究者にとっての便益は計り知れない。外国の研究者にとっても、オリジナルスクリプトを使うことによって、共通のインターフェイスでデータアクセスを可能にすることができる。このプロジェクトにより、東洋学の基礎的な書誌データが広く利用できるようにすることを目的とする。

【事業実績概要】；

本プロジェクトは、東洋学に関する世界有数の研究所・図書館である東洋文庫における各種情報を統一的な規模のもとにデータベース化し、インターネットなどを通じて自由に検索できるようにすることを目指している。データベース構築に当たっては、できる限りアジア諸言語のオリジナルスクリプトで入力・表示・検索・ソートを行うことにより、研究者に利用しやすい環境を整備しデータをアップした。また、東洋文庫の豊富な情報を元に他機関のデータベース構築の支援を実施するとともに、アラビア文字文献書誌については、入力支援だけではなく、数機関のデータを統合した総合目録を公開している。今年度の書誌情報は、従来の特殊語・中国語・ハングルのデータの他に、特に東洋学に関する洋書の書誌入力を充実させ、19世紀から20世紀初頭の貴重な図書のデータベース（レコード数15,000件）を完成させ、順次公開している。

基盤研究（B）—（1）

【課　題】　「宋代の経済政策及び関連する諸政策の総合的研究」

【期　間】　平成14年度（平成14年度採用、3ヶ年間・初年度）

【目　的】；

本研究は、宋代の経済を王朝の官僚機構が記した克明な資料に即しつつ、経済政策・財政運営の全体像の角度から解明することを目的とする。資料の中心をなすものは『宋史食貨志』であり、その資料源にあたる『宋会要輯稿』、政策の立案・執行の理解に不可欠な『朝野類要』それぞれにつき分担する班を編成して推進と統合をはかる。①期間中に、『宋史食貨志』研究班は同書下巻4～8の訳註稿を完成させる。『宋会要輯稿』研究班は他の2班と協力し「地名・一般語彙索引」を作成して、この資料についての索引事業を完結する。『朝野類要』研究班は訳註稿を完成させるとともに、他の2班との合同会で成果を検討し合う。②③中国経済史の基本資料に対する訳註事業は、日本の中国史研究のなかで世界的な評価を得ている領域であり（例、1955-60年、国際宋史計画協力事業への参加）、上記事業の国内外への貢献度は大きい。

【事業実績概要】；

（1）『宋史食貨志訳註』（四）（会計、銭幣、会子）を刊行した。（全530頁平成14年5月）

（2）『宋史食貨志訳註（一）～（四）語彙索引』を刊行した。（全123頁平成14年12月）

（3）『宋史食貨志下3～5塩』及び『同下5～6茶』の訳註成稿について合同検討会を東洋文庫、電通会館、無窮会図書館等において開催した。

（4）『宋会要輯稿食貨語彙（地名）索引稿』（A4版　314枚）を作製し、その点検を開始した。

（5）続いて『宋会要輯稿食貨語彙（一般）索引稿』を作成中である。

（6）『朝野類要』の訳註稿についての合同検討会を、東洋文庫、学習院大学東洋文化研究所、早稲田大学、青山学院大学等において行った。

（7）文淵閣『四庫全書』CD-ROM（全文検索版）第1部及び第2部（小計139枚）を購入し、研究に多大な便宜を得ている。

（8）『朝野類要』の版本調査を北京大学（清恵棟校、四庫全書原本）及び中国国家図書館（清抄本2種）において行った。

（9）研究代表者は米国でアジア学会（ニューヨーク）の年次大会に参加して、本プロジェクトの研究状況を発表し、併せて欧米の研究状況を調べ、また今後の国際協力事業内容について意見交換をした。

【研究代表者】　斯波義信研究員（総括）

【研究分担者】　渡辺紘良（宋史食貨志研究班）、長谷川誠夫・青木　敦・石川重雄・王瑞来（以上、宋会要輯稿研究班）、相田　洋・近藤一成・安野省三（以上、朝野類要研究班）

基盤研究（C）―(2)

【課　題】　「抄物目録の完成」

【期　間】　平成14年度（平成14年度採用、3ヶ年間・初年度）

【目　的】；

抄物はキリシタン資料・狂言詞章とともに中世日本語研究資料として価値が高い。しかし、その発掘・調査は遅れており、それに従う研究者は近年少なくなっている。筆者は40年近く全国の寺社・文庫・図書館に現地調査し、1万点にのぼる抄物を調査しているが、さらに調査を進め、その総合目録の完成に努めている。

【事業実績概要】；

（1）「今年度の調査」　足利学校・歴博・国会図書館・東洋文庫・国語研究所・公文書館・斯道文庫・学習院大・昭和女子大・大東急文庫・静嘉堂文庫・防衛大・蓬左文庫・神宮文庫・西来寺・京都大・陽明文庫・高山寺・中之島図書館・杏雨書屋・天理図書館・龍門文庫・武庫川女子大・広島市大・徳山県立大・島根大・九州大・松平文庫等において発掘・調査を行った。特に特定の原典を持たない神道関係書（『文意抄』『諸神記』等）、占い関係書（『洗心経』『八卦』等）、辞書（『慶長九年本』『永禄十一年本』）をはじめ新資料を発掘した。

（2）「資料性の解明」　既調査資料を含め各資料の解明に努めた。龍門文庫所蔵の『洗心経』が彩色画をもつ、新しい種類の抄物であることがわかり、依拠した明版にさかのぼり、その性格を解明した。天理図書館吉田文庫本を中心に神道関係抄物の整理を完了した。そのうち特定の原典をもたないものがどのくらい伝存するのか見当もつかなかったのであるが、吉田兼倶・兼右・梵舜・その他のものがあることが判明した。片仮名交じり注を持つ辞書のうち節用集の解明もほぼ完了した。

（3）「今年度の目録の作成」　①特定の原典に対する抄物、②書き入れ仮名抄、③特定の原典を持たない一種の抄物、に大きく三分し、目録の作成を進めている。②と③と①のうち漢籍の部はその大部分が完成したが、それに新しく発

掘した資料を組み込むことと、①の仏典と国書とに予想以上の時間を必要としている。

【研究代表者】　柳田征司研究員

基盤研究（C）―(1)

【課　題】　「渤海都城の考古学的研究」

【期　間】　平成14年度（平成14年度追加採択、2ヶ年間・初年度）

【目　的】；

渤海の都城については、昭和8・9年に東亜考古学会が実施した東京城（上京龍泉府）の調査があり、昭和13年度には半拉城（八連城＝東京龍原府）、西古城（中京顕徳府）が調査された。戦後になると、1961年に中国・朝鮮合同調査隊が東京城を再調査し、その後も東京城については、中国側によって断続的に調査されている。またその他の都城についても、ごく最近、調査を行ったという。

本研究は、現在東京大学に所蔵されている東京城出土の瓦の整理調査を進めることによって、渤海都城の変遷を明らかにすると共に、従来の渤海都城の調査結果を総括し、中国・朝鮮三国や高麗、日本の平城京や平安京などの都城に関する考古学的な調査結果と比較検討し、渤海の都城が東アジアの古代・中世における都城制度のなかでどのような位置をしめているかという点を明らかにすることを目的としている。

【事業実績概要】；

（1）　研究集会開催　以下のように3回行った。

①　平成14年12月　井上和人「平城京の考古学的調査研究の現状」

②　平成15年1月　妹尾達彦「中国の都城と東アジア」

③　平成14年3月　李　恩碩「新羅の王都について」

（2）　資料調査実施

①　田村が李準浩氏の協力を得て、韓国のソウル大学校に所蔵されている資料の下調べを行った。ソウル大学校では、今年7～9月に大規模な渤海遺物展を開催する計画を持っている。この展覧会が終了した後、10月～11月頃に本格的な遺物の調査を行うこととした。

②　清水信行と田村が小嶋芳孝氏の援助を得て、福井県立博物館と斉藤優氏宅に所蔵されている渤海関係遺物の調査、写真撮影などを行った。

③　飯島武次と田村が北京大学、中国社会科学院歴史研究所、考古研究所などで、王仲殊氏、斎東方氏らと会談し、中央における渤海研究の状況に

ついて調査した。

（3） 史・資料整理

① 田村が千葉芳子氏の協力を得て、「渤海関係基本史料」を整えるため、文淵閣版『四庫全書』中の渤海関係記事約3,000件の検討を行い、将来のデータベース化のためのカード作成（約500枚）を行った。

② 田村の監督のもと、鄭仁盛氏による、東大収蔵の上京出土資料の整理を行った。

【研究代表者】 田村晃一研究員（総括）

【研究分担者】 飯島武次・妹尾達彦（以上、渤海都城と阿唐都城の比較研究）、清水信行（渤海都城の考古学的調査研究）、井上和人（日本の都城と渤海都城との比較研究）、早乙女雅博（朝鮮三国の都城と渤海都城との比較研究）

ii 一般調査研究

新研究プロジェクト：「地域間比較の手法による伝統的社会の仕組みと展開に関する研究―東アジア・中央アジア・西アジアを中心に―」

平成12年度から4年間は、朝鮮・中国・中央アジア・西アジアを中心に、ユーラシア大陸を東西につらぬくアジア社会をとりあげ、写本・刊本・文書資料等にもとづいて伝統的社会のしくみとその展開を地域間比較の視点から体系的な考察を実施した。また、本プロジェクトで収集した図書・資料は、下記の通りである。

区　分	和漢書	洋　書
数　量	570冊	875冊

本年度は、文部科学省国庫補助金事業として上記「新研究プロジェクト」の方針のもとに、東亜考古学研究委員会、中央アジア・イスラム研究委員会を中心に調査研究を進めた。なお、研究部12研究委員会の事業は下記の通りである。

（各委員会の中の研究課題の後に付された◉印は、文部科学省国庫補助金事業費および東洋文庫学術情報提供費等を使用して主に重点的に事業担当したことを示す。また、研究委員会の後に※印を付した委員会は、つぎの「iii．特別調査研究」の事業を別途に行っていることを示す。）

東亜考古学研究委員会

① 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真、実測図、拓本、野帖等）の整理とその目録の作成。

② 「東アジア都城遺跡研究」の作成◉。（以上、前年度の継続）

古代史研究委員会

① 中国古代都市研究会の開催。
② 『水経注疏』巻十七渭水の講読会の隔週開催◉。
③ 「東アジア都城遺跡研究」の作成協力。
④ 『晋書食貨志譯註』の作成。（以上、前年度の継続）
⑤ 東洋文庫所蔵中国画像銘、造像銘、墓碑銘拓本の整理研究。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、収集マイクロフィルムの調査、整理。
② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献およびそれらの研究成果の公開、および情報の提供。
③ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集およびそれらに引用された出土文書番号の採録カード（研究文献目録補遺）の補充。
④ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。

9月21日（土）　池田　温「敦煌学学術史国際研討会（8月25日～28日、於北京理工大学）に参加して」
10月19日（土）　石見清裕「山西石刻史料調査（2002年8月）の報告—沙陀李克用墓誌を中心に—」
12月7日（土）　楊　秀清（敦煌研究院）「唐宋時代敦煌の世俗仏教信仰」
1月11日（土）　関尾史郎「トゥルファン、高台出土五胡時代契約文書簡介」
3月15日（土）　殷　光明（敦煌研究院考古研究所）「従敦煌伝統神話題材演変看仏教的中国化—以伏羲、女媧為中心」

⑤ 東洋文庫所蔵石刻拓本関係資料研究会の開催。（以上、前年度の継続）

宋代史研究委員会

① 『宋史食貨志訳註(五)(六)および総索引』の作成◉。
② 『朝野類要訳註』の作成。
③ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項(地名、一般)語彙索引作成◉。（以上、前年度の継続）
④ 宋代研究文献目録及び速報の作成。

明代史研究委員会

① 明代社会経済等に関する文献の講読および研究会の開催。（前年度の継続）

清代史（満蒙）研究委員会

① 「東洋文庫所蔵満文檔案」の整理・研究。（隔週、研究会の開催）
② 各国所蔵の満洲語文献の総合的調査・研究。
③ 『内国史院檔（満文）』の作成◉。（以上、前年度の継続）

近代中国研究委員会※

① 近現代中国関係資料の書誌的研究。
② 近現代中国関係資料の収集、整理。
③ 『近代中国研究彙報』第24号の編集、出版。
④ 日中現代史研究会の開催。

6月1日（土）　吉村道男「昭和戦前期日本国号呼称問題―中国大使館の昇格問題との関連」
7月27日（土）　本庄比佐子「華南における興亜院の調査」
9月21日（土）　安藤正士「西安事変と延安根拠地の形成」
11月9日（土）　中村　義「＜満州は別サと眉につばをつけ＞（剣花坊、昭和2年3月）」
1月18日（土）　瀧下彩子「九・一八以後の上海影業」
3月15日（土）　福本勝清「中国史研究とアジア式生産様式」

⑤ 中国調査資料研究会の開催

日中戦争時期の興亜院による中国調査を研究課題とするプロジェクトは、研究成果として『興亜院戦時中国調査』（岩波書店）をまとめた。

日本研究委員会

① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書書誌解題（Ⅳ）（Ⅴ）』の作成◉。（前年度の継続）
② 日本関係洋書解題目録の作成。

朝鮮研究委員会

① 「朝鮮王朝後期戸籍大帳解題」の作成◉。（前年度の継続）
② 漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。
③ 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

中央アジア・イスラム研究委員会

① イスラム社会の構造の研究。
② イスラーム関係史料の収集と研究（イスラーム地域研究）。
③ ロシア所蔵中央アジア古代語文献の総合的研究◉。
④ イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。
⑤ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。（以上、前年度の継続）
⑥ 隊商貿易史の研究。
⑦ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

チベット研究委員会※

① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。
② チベット学に関する研究会の開催。（以上、前年度の継続）

南方史研究委員会

① 東南アジア・南アジア関係歴史言語資料の調査・収集・研究。
② インド亜大陸のイスラーム地域研究に用いられる史資料の収集・研究。
③ ムガル期の一次資料（ペルシア語、ウルドゥー語など）を読む研究会の開催。（以上、前年度の継続）
④ ヴェトナム関係、タイ関係研究資料の整理、目録の作成。
⑤ 辻文庫目録(3)、萩原文庫目録の Index の作成。

iii 特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目　　的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】；

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会受入のチベット人研究者の協力のもとに下記の作業を進めた。

① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂のカードを点検し、目録データベースの作成を継続した。
② チベットの伝統的仏教学の基礎教程について数冊の教科書を選び、チベッ

ト人研究者の指導のもとに、分析・研究を進めた。

③『チベット語文語辞典』編纂の基礎資料としてチベット仏教の基本的文献についてのデータベース作成を継続した。

2) チベット文献の収集・整理

区　分	洋　書
数　量	24冊

3) 研究成果の刊行

近代中国特別調査研究（近代中国研究委員会）

【目　　的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】；

1) 共同利用研究

2) 情報交換および参考業務（近代中国研究事務室において常時遂行）

3) 図書資料の収集・整理

区　分	和漢書	洋　書	マイクロフィルム資料
数　量	600冊	45冊	33リール

4) 研究成果の刊行

① 『近代中国研究彙報』 第25号　　Ａ５判　　１冊　　（刊行済）

iv　その他の平成14年度研究助成金による事業

1)　三菱財団人文科学研究助成金特別事業

①【課　題】「サンクト・ペテルブルグ所蔵内陸アジア出土文書の総合的研究Ⅲ」

【期　間】 平成12年10月～平成14年９月（２ヶ年間）

【目　的】；

財団法人東洋文庫は、敦煌文献研究センターとして、これまで大英図書館、フランス国立図書館、北京図書館が所蔵する敦煌文書のマイクロフィルムを網羅的に収集し

て多くの研究成果を公表し、内外の研究進展に貢献してきた。今回、唯一未収集のロシア科学アカデミー東洋学研究所 St. ペテルブルグ支所所蔵の敦煌・カラホト文書等（約25万コマ）のマイクロフィルム化を、同研究所との共同事業（1996-2002年）として実施することができた。同文書には、漢文文献のほか、チベット語、ウイグル語、西夏語、ソグド語、コータン語、サンスクリット語、満洲語、モンゴル語、アラビア語、ペルシア語などの文献を含んでおり、内陸アジア諸民族の歴史、言語、宗教、文学などについて、より一層の研究進展に大きく寄与するものと確信する。

【事業実績概要】；

内陸アジア出土各言語別報告

ウイグル語文書（担当：梅村　坦＝東洋文庫研究員・中央大学教授）

ウイグル文献については、今回の調査・撮影によって、ごく小さな断片まで含めてほぼすべての写本のマイクロフィルムが東洋文庫に将来されたことになる。これは研究・資料保存の両面で世界のウイグル学にとっても非常に画期的なことである。マイクロフィルム撮影数としては約１万コマ、関連情報を含めて２万コマに及んだ。以上の情報について、まず基礎的なデータを公表すべく、『東洋文庫所蔵 St. Petersburg ウイグル文字・ソグド文字・マニ文字写本マイクロフィルム仮目録［第Ｉ稿］』（東洋文庫、2002年４月１日）を梅村坦・庄垣内正弘・吉田豊・ヤークプ アブドゥリシドが作成した。

ソグド文字文献・マニ文字文献（担当：吉田　豊・神戸市外国語大学助教授）

ソグド文字文献は、1930年代に、タジク共和国で発掘されたムグ山文書群と、20世紀の始めに、トルファン盆地と敦煌で出土した文書からなる。今回東洋文庫が入手したマイクロフィルムはすべてこのトルファン及び敦煌出土の資料である。マニ文字文献は50点ほど、ソグド文字文献は160点ほどであろうか。すべてが断片で、多くは手のひら大である。多くの文書は既に研究が発表されており、必ずしも良質とは言えないが写真もかなり公表されている。

コータン・サカ語文書（担当：熊本　裕＝東洋文庫研究員・東京大学教授）

コータン・サカ語写本の年代は５-６世紀から10世紀と推定され、インドの仏教文化の影響を強く受けてインド風のブラーフミー文字で書かれている。代表的な所蔵地はロンドン（スタイン蒐集など）・パリ（ペリオ蒐集）とサンクトペテルブルグ（ペトロフスキーおよびマローフ蒐集）である。今回マイクロフィルム化されたロシア所蔵のコータン・サカ語文書には、多くの重要な仏教文献と中央アジアの未知の歴史に光を当てる貴重な世俗文書が含まれる。

サンスクリット語文書（担当：堀　伸一郎・国際仏教学大学院大学助教授）

サンスクリット写本のほとんどは仏教文献であり、そのうち半数以上の写本は写真版が既に出版されている。マイクロフィルムは公刊された写真版に比べて鮮明なコマ

が少なくなく、従来の解読結果を改善できる可能性がある。より貴重なのは未公刊写本である。目下筆者が未公刊写本の同定作業に従事しているが、これまでに調査した範囲だけでも、『月藏經』『大寶積經寶梁聚會』等、極めて珍しい梵文断簡が見つかった。今後も、従来サンスクリット写本がほとんど発見されていなかった貴重な仏教文献が続々と同定できる見通しであり、これらが出版されれば、コータン・サカ語訳、チベット語訳、漢訳等の翻訳文献との対照が可能となり、仏教梵語学・仏教文献学に多大な寄与をなしうるものと思われる。

チベット語文書（担当：福田　洋一＝東洋文庫研究員・大谷大学助教授）

ロシアは帝政末期からソビエト時代初期に、大量のチベット語文献を手中に収めることに成功している。しかし、その膨大なチベット語文献は、十分な整理もされていないまま現在に至っている。今回の調査では、既に整理されたものの中から、ゲルク派初期の著作のうち東洋文庫の所蔵していないもの、あるいはインドなどから複製本の出版されていないものを中心に、ゲルク派初期の高僧全集、稀覯本に属する高僧全集、翻訳名義大集、古い倶舎論注などの珍しい版などを収集した。チベット仏教の覇権を握る前の初期ゲルク派の内実を解明するための貴重な資料であることは疑いない。

漢文文書（担当：關尾　史郎・新潟大学教授）

漢語文献は、敦煌から出土したものとカラホトから出土したものに分類されている。このうち前者が大半を占めており、その総数は約２万点に及ぶ。内容的には、５世紀以降10世紀初頭までに書写された写経類が中心だが、そのなかには、公文書の紙背を利用して書写されたものもある。本事業では、以上のような漢語文献をほぼ全部、約５万コマ分を選定・将来した。今後の課題としては、敦煌出土と分類されている漢語文献のなかには、カラホトをはじめとして、トルファンやホータンなどから出土したものも混在していることが指摘されているので、それらを弁別する作業が求められる。また約２万点の文書のうち定名が完了しているのは、全体の20％程度にすぎないが、第一の課題と並行して進めていかなければならない。これらの作業を経て、漢語文書は、中国古代・中世史、中央アジア史、および中国古文書学などの諸研究に画期的な成果をもたらすことになろう。

西夏語文書（担当：西田　龍雄＝東洋文庫研究員・日本学士院会員）

西夏文資料は、重複する部分を含めて全体で8,000種類を下らないと考えられる。その中、とくに西夏語自体の研究にとって有用な資料は研究されテキストも公刊されているが、それ以外の大部分の資料は未研究のまま遺されている。それらは主に経、律、論の仏典の類で、その内容も詳しく分からないものも多量に含まれている。今後の最重要課題は、その目録作成にある。全体を統合し分類していけるような基準をまずたてて、整理研究するのが重要な方針であろう。

満洲語文書（担当：石橋　崇雄＝東洋文庫研究員・国士舘大学教授）

満洲語文献に見られる大きな特徴は、清朝の中国支配開始から崩壊するまでのほぼ３世紀に亘って作成された政治・経済・社会・文化・文学・宗教などの広範囲に及ぶ内容の文献類が、網羅的かつ大量に収蔵されていることである。本事業では、とりわけ全体に貼紙・塗抹・加筆・訂正箇所の散見している稀覯本に注目し、約２万コマ分を選定した。今後は引き続き、他の残存文献類との対比研究による整理・検討作業を進め、これらの文献類の詳細な内容や編纂過程を解明することが急務である。これらの満洲語文献を利用することで、16世紀以降の時代を中心とする中国史、中国・ロシア関係史、キリスト教関係史などの諸研究は新たな研究段階に入ることになろう。

アラビア語写本（担当：佐藤　次高＝東洋文庫研究部長・東京大学教授）

アラビア語写本については、すでに東洋学研究所から目録が刊行されており、この目録にもとづいて「歴史」・「地理」に分類されている写本はすべてマイクロフィルム化することができた。既刊行の目録にもとづく東洋文庫独自の仮目録の作成も順調に進んでおり、まもなく閲覧に供することが可能である。

ペルシア語文献（担当：近藤　信彰・東京外国語大学助教授）

同研究所は、イラン・中央アジア関係のペルシア語良写本を多数保存していることで知られており、特に、16世紀以降の歴史書、伝記集、書簡集、文書集には、現地ですら見られない未公刊の重要写本が数多くある。その中で特に貴重と考えられる93点、約１万7000コマ分を選定した。これらの未公刊史料の利用により、特に16世紀から19世紀のイラン、中央アジア史は大きく書き換えられることは疑いなく、その成果は日本および世界の学界に大きく寄与するものとなろう。

チャガタイトルコ語文献（担当：磯貝　健一・京都外国語大学助教授）

チャガタイ語を中心とするテュルク系諸語の写本、および文書類で、収集した文献の中核をなすのは、東西トルキスタンで作成されたチャガタイ語の年代記と聖者伝である。また、チャガタイ語以外の文献で特記すべきものとしては、歴代クリミア・ハーンの勅書、および、19世紀にタタール語で書かれた歴史・地理書の諸写本があげられる。特に、後者は収集文献全体の３分の１程を占めている。これまでも我が国では、西欧の諸機関に所蔵される各種写本を利用しての、東トルキスタンの年代記および聖者伝の研究が盛んであったが、本収集作業の結果もたらされた数々の良写本はこの分野の研究をさらに推し進めることになるであろう。

【本プロジェクトの将来計画・課題】

本プロジェクトは、世界で初めて実施されたロシア St. ペテルブルグ支所所蔵の内陸アジア諸民族関係資料のマイクロ化事業である。本事業は、ロシアの世界的文化遺産を保全するとともに、その遺産を網羅的に収集することをめざすが故に、日本国内をはじめ世界的にも多大な関心と注目を集めている。現在は、まず緊急の課題として、

収集済みのマイクロフィルムの分析・整理を実施中であり、一般公開にむけて、各言語の書誌的データをとり入れた仮書目を作成することを第1の課題とする（現在、2002年4月より、順次、仮書目作成済み言語から公開している。詳細については、2001年3月刊行の *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 58および2001年6月刊行の『東洋学報』83-1公告の欄を参照されたい）。第2の課題は、収集した文書のフィルム資料を駆使して、東洋文庫を拠点に、東洋文庫研究員をはじめとする国内外の専門研究者の参加を得て国際的な共同研究プロジェクトを実施し、内陸アジア諸民族の歴史・文化・言語・宗教・社会経済等の分野における総合的研究を推進することである。

【代表者】　佐藤次高研究部長

【分担者】　西田龍雄、池田　温、梅村　坦、石橋崇雄、熊本　裕、福田洋一の各研究員

②【課　題】　**「中国古代地域史研究―『水経注』の分析から―」**

【期　間】　平成14年10月～平成17年9月（3ヶ年間）

【目　的】；

近年、科学的な調査と考古学的な発掘および夥しい出土文物によって、中国古代史研究は更めて、中原地域とその周辺の各地域を対象とする地域史を中心に、具体的な史料の再構築の必要性がさけばれている。

『水経注』は、中国最古の地理書（原典6世紀）として、中国の河川を中心として、各地域の地勢及び都邑・遺址・遺物に関して、調査を行ったものである。さらに注目すべきは各地の人物や歴史事実の記録、及び伝承に至るまで丁寧な記録を残している。これは古代地域史の資料の宝庫である。

中国では、宋・明以来、それまでに佚われた部分を含めて、この史料の正確な復原と解注が行われ、特に清朝考証学者及び二十世紀以後の歴史学者がその研究に多大な努力を行って来た。我々はその基礎に立って中国古代史研究の立場から『水経注』の理解と評価とを再検證して、現代につながる新たな中国古代の地域史の具体像を明らかにすることを目的とする。

【事業実施概要】；

本研究は、東洋文庫前近代中国研究班「中国古代地域史研究」チームが、従来、継続してきた中国都市研究会の研究事業の一環として行うものである。本研究は10年余に亘って中国古代の各都邑の考古学的調査を行ってきた結果、基本文献たる『水経注』の再調査の必要性を痛感した。その為、各時代の専門研究分担者は、それぞれ以下の史料調査を実施した。

殷周時代（松丸道雄）、春秋戦国時代（宇都木　章）、秦漢時代（太田幸男、飯尾秀幸）、三国南北朝時代（堀　敏一、塩沢裕仁）。この史料調査研究は、各々研究分担者を中心にして、各時代の若い研究者の補助を得て、必要な資料を集め、整理・分析を行った。　現在、毎月２回、「中国古代地域史研究」チームにおいて、『水経注疏』をテキストにして、輪読を行っているが、今後、各分担者は、注疏の引用する原典を再検討し、特に最新の精密な地図および衛星写真（ランドサット地図）によって作成された詳細な地勢、地名、遺址の位置の確認と改訂とを遂行中である。そのために日中における最新の研究情報を交換し、近く専門研究者の派遣・招聘を行う予定である。その結果は、毎回、解読原稿を作成し、殷周～三国南北朝の時代ごとに集大成する。それによって永年の懸案である『新版・水経注疏』の成果としてまとめることを期すものである。

【代表者】　堀　敏一研究員

【分担者】　宇都木　章、松丸道雄、太田幸男、飯尾秀幸、塩沢裕仁の各研究員

2)　生化学工業株式会社寄付金特定事業

【事業名】　アジア関係資料データベース化プロジェクト

［プロジェクト代表：斯波義信］

【期　間】　平成13年度～同17年度（５ヶ年計画）。
当初予定された事業は完了したので、新たに東南アジア関係の資料のデータベース化事業を推進する。

【目　的】　本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金５千万円を以て、東南アジア研究を促進するためであったが、当初予定の事業を終えたので、今後は広く東南アジアを中心としたアジア関係資料の公開も含め、データベース化事業を推進することを目的とする。

【事　業】　アジアを中心とした資料の整理公開のためのデータベース化事業を進めた。

v　研究委員会

研究部の研究事業を企画・実施する研究委員会は、５部門12研究委員会にわかれる。平成14年度の各研究委員会に所属する研究員などは以下のとおりである。

なお、専任・兼任の研究員以外にも、奨励研究員、当該年度受入の外国人研究員、

日本学術振興会特別研究員、各大学の国内研修教員受入なども各々の研究の専門分野に応じて、便宜上、12研究委員会のいずれかに所属させた。

第１部　中国研究

東亜考古学：飯島武次、田村晃一

古代史：飯尾秀幸、宇都木　章、太田幸男、窪添慶文、堀　敏一、松丸道雄

唐代史（敦煌文献）：池田　温、菊池英夫、氣賀澤保規、妹尾達彦、土肥義和
松本　明、高瀬奈津子、夏　日新

宋代史：草野　靖、佐伯　富、斯波義信、竺沙雅章、千葉　咫、中嶋　敏
長谷川誠夫、柳田節子、吉田　寅、渡辺紘良

明代史：鈴木立子、鶴見尚弘、山根幸夫、和田博徳

近代中国：市古宙三、内山雅生、久保　亨、滋賀秀三、本庄比佐子、矢澤利彦
安藤潤一郎

第２部　日本研究

日本：石塚晴通、上野英二、海野一隆、大谷俊太、酒井憲二、佐竹昭広、田中時彦
辻本裕成、杤尾　武、鳥海　靖、中野真麻理、深沢眞二、宮崎修多
柳田征司、和田恭幸

第３部　東北アジア研究

清代史（満洲・蒙古）：石橋崇雄、岡田英弘、加藤直人、神田信夫、岸本美緒
C. A. ダニエルス、中見立夫、細谷良夫、松村　潤、王　其戈

朝鮮：井上和枝、梅田博之、大江孝男、槽谷憲一、武田幸男、古屋昭弘、山内弘一
吉田光男

第４部　中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村　坦、片山章雄、後藤　明、小松久男、佐藤次高
志茂碩敏、清水宏祐、蔀　勇造、新免　康、杉山正明、永田雄三、花田宇秋
林　佳世子、林　俊雄、三浦　徹、森安孝夫、八尾師　誠、大河原知樹
佐藤健太郎

チベット：川崎信定、北村　甫、立川武蔵、西田龍雄、福田洋一、星　實千代
松涛誠達、御牧克己、山口瑞鳳

第５部　インド・東南アジア研究

南方史：荒　松雄、池端雪浦、石井米雄、小名康之、風間喜代三、辛島　昇
熊本　裕、桜井由躬雄、永積洋子、萩田　博、原　實、山崎元一

2．学術図書出版

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』　第84巻第１号～第４号　平成14年６月、９月、12月、平成15年３月刊
Ａ５判　４冊　全556頁

東洋文庫欧文紀要

Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko, No. 60　2002年刊
Ｂ５判　129頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

清代史（満蒙）研究委員会　（特別研究資料出版Ａ）

『内国史院檔―天聰七年―』　平成15年３月刊　Ａ５判　249頁＋Plates 125頁

Toyo Bunko Research Library　No. 3　（特別研究資料出版Ｂ）

Research Trends in Modern Central Eurasian Studies (18th — 20th Centuries): Critical Review on Works Published between 1985 and 2000
平成15年３月刊　Ａ５判　238頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第25号　平成15年３月刊　Ａ５判　95頁

東洋文庫諸目録等

『東洋文庫書報』第34号　平成15年３月刊　Ａ５判　210頁

『東洋文庫新着図書目録』第50号　平成15年３月刊　Ｂ５判　108頁

『東洋文庫年報』（平成13年度版）　平成14年10月刊　Ａ５判　87頁

『宋史食貨志譯註（一）～（四）語彙索引』　平成14年12月刊　Ｂ５判　vii＋123頁

3．講　演　会

春期　東洋学講座（共通テーマ；日本の古典文学―岩崎文庫書誌解題にちなんで―）
［東洋文庫創立80周年記念講演会（1）］

第467回　平成14年5月7日（火）
「光源氏の名前」　九州大学教授　今西祐一郎　氏

第468回　平成14年5月14日（火）
「ほととぎす・蓑虫・蛙」　東洋文庫研究員
和光大学助教授　深沢　眞二　氏

第469回　平成14年5月21日（火）
「三十一字」　東洋文庫研究員
国文学研究資料館名誉教授
京都大学名誉教授　佐竹　昭広　氏

秋期　東洋学講座（共通テーマ；東洋学の至宝：モリソン文庫）
［東洋文庫創立80周年記念講演会（2）］

第470回　平成13年10月15日（火）
「モリソンの仕事とモリソン文庫」
京都大学東南アジアセンター教授
東京大学東洋文化研究所教授（併）　濱下　武志　氏

第471回　平成14年10月22日（火）
「近代中国のアヘン問題とモリソン文庫」　就実女子大学教授　新村　容子　氏

第472回　平成14年10月29日（火）
「モリソン文庫の逸品選」　東洋文庫理事長　斯波　義信　氏

特別講演会（不定期）

第1回　平成14年7月5日（金）
"Europe's Intellectuals and the Challenge of Islam"
（ヨーロッパの知識人とイスラームの挑戦）
Prof., Univ. of California (Berkeley)　Renate Holub　氏

第２回　平成14年９月５日（木）
「古代突厥・回鶻文献と現代―ウイグル族の三大自然崇拝―」
中国新疆師範大学副教授　阿布力米提・拜斯尓　氏

第３回　平成14年９月25日（水）
「中国古文献学与古文献整理」
北京大学中文系教授・古文献研究所長　孫　　欽　善　氏

第４回　平成14年12月25日（水）
「楊守敬〈日本訪書〉の二、三の問題について」
中国湖北省社会科学院研究員　夏　　日　新　氏

第５回　平成15年２月21日（金）
「“主僕名分”与宋代奴婢的法律地位」
上海師範大学人文学院教授　戴　　建　国　氏

４．研　究　会（東洋文庫談話会）

・平成14年12年18日（金）
「五台山普通院の設置と中唐仏教」　　東洋文庫奨励研究員　高瀬　奈津子　氏

・平成15年２月４日（火）
「オスマン朝末期のシリアの社会――家族・人口・戦争――」
日本学術振興会特別研究員　大河原　知樹　氏

５．学術情報提供

i　研究者養成（東洋文庫奨励研究員・平成14年度をもって休止）

中国研究　　高瀬　奈津子　（明治大学大学院 P.D.）
「中国北朝隋唐時代の仏教と国家・社会の関係」（平成13･14年度２ヶ年間採用）

ii　研究者の交流および便宜供与のサービス

1）国内研究者の長期受入

2）平成14年度日本学術振興会特別研究員 P.D. の受入

大河原　知樹（慶応義塾大学大学院 P.D.）
「イスラム法廷文書をもちいた中東の家族史研究：
19～20世紀初頭のダマスカス」（平成12年度採用、同13・14年度３ヶ年間）

佐藤　健太郎（東京大学大学院 P.D.）
「11～13世紀アンダルス（イスラーム・スペイン）における暦と祭」
（平成14年度採用、同15・16年度３ヶ年間）

安藤　潤一郎（東京大学大学院 P.D.）
「近代中国におけるイスラム系少数民族の研究―主として国際関係の視座から」
（平成14年度採用、同15・16年度３ヶ年間）

3）外国人研究者の受入

王　　其　戈　　モンゴル文化教育大学教授
「漢語文献に見られるモンゴル民族を中心とした
中国少数民族に関する関係資料の民族学的研究」
（平成14年４月23日以降１ヶ年間・私費）

夏　　日　新　　中国湖北省社会科学院研究員・歴史研究所所長
「日本収蔵中国魏晋南北朝隋唐時代に関する文献資料の調査と研究」
（平成14年５月31日以降６ヶ月間・中国国家留学基金資助）

4）研究者の派遣

5）外国人研究者への便宜供与

China（Peoples Republic）
李　　錫　厚　　中国社会科学院歴史研究所研究員

李　　憑	中国社会科学院歴史研究所研究員
陳　祖　武	〃　　〃　研究員・副所長
方　克　立	〃　研究生院院長・教授
趙　光　遠	〃　　〃　教授
劉　岳　兵	〃　　〃　中国哲学博士課程院生
呉　広　義	〃　世界経済与政治研究所副研究員
全　太　錦	北京師範大学教授
麻　国　慶	北京大学社会学系副教授
孫　進　己	瀋陽東亜研究中心主任研究員
雷　　雲	大連図書館副研究館員、館長助理
馬　巧　英	大連甘井子区文化体育局副局長
張　暁　秋	大連職業技術学院副研究館員・図書館長
林　紅　宣	大連図書館主任
張　翠　栄	大連市甘井子区図書館館長
姜　広　平	大連市瓦房店図書館館長
王　海　梅	内蒙古大学蒙古学学院助教授
色・斯琴畢力格	内蒙古図書館副研究員
張　双　福	≪内蒙古社会科学≫雑誌副主編
王　其　戈	内蒙古文化教育大学教授
夏　日　新	湖北省社会科学院歴史研究所所長、研究員
阿布力米提・拜斯尔	新疆師範大学人文学院副教授
孫　欽　善	北京大学中文系教授・古文献研究所所長
陳　　捷	日本女子大学文学部講師
張　先　堂	敦煌研究院副研究員
祖　　慧	浙江大学教員
朱　　英	華中師範大学教授
陳　　鋒	武漢大学教授
郭　徳　宏	中国中共中央党校教授
讒　永　孫	中国第一歴史档案館館長
潘　俊　英	〃　組長
周　大　鵬	中山大学人類学系主任
殷　光　明	敦煌研究院副所長・副研究員
揚　秀　清	〃　副研究員
烏力吉巴雅爾	中央民族大学中国少数民族語言文学学院教授

龍　登高	清華大学副教授
辛　徳勇	中国社会科学院歴史研究所副所長・教授
艾賽提・蘇来曼	新疆大学人文学院中文系副教授
王　曉秋	北京大学教授
戴　勇	中国天津日本文庫館員
戴　秋娟	北京外国語大学教員
戴　建国	上海師範大学人文学院・古籍研究所教授
鄭　会欣	香港中文大学中国文化研究所研究員
周　勇	重慶行政学院教授・常務副院長
李　建民	東京大学大学院人文社会系研究科客員助教授
周　一平	華東師範大学法政学院教授
王　士花	中国社会科学院近代史研究所副研究員

China (Taiwan)

周　婉窈	中央研究院台湾史研究所研究員
陳　弱水	〃　歴史語言研究所研究員
曹　永和	〃　社会科学研究所研究員
林　英津	台北中央研究院語言所研究員
劉　維開	政治大学歴史学系副教授

Egypt

Hasan Hanafi	Kansai Centre-Japan foundation　司書

France

P. Lebigre	Professor, EAPUS

Germany

Erhard Rosner	Prof., Ostasiatisches Seminar der Universität Göttingen.
Claus M. Fischer	〃　〃　〃
Liew, Foon Ming	Dr. Institut füer Sinologie und Ostasienkunde der Westfälische Wilhelms-Universität Münster.

Korea

金　東昭	韓国大邱カソリック大学教授

李　文基	慶北大学校教授
張　東翼	〃　〃
任　大熙	〃　師範大学歴史教育科教授
河　富容	韓国国立中央図書館司書
権　貞任	〃　〃
宗　林	高麗大蔵経研究所所長
金　海住	東国大学校教授
卞　順美	〃　〃
崔　鍾男	中央僧伽大学教授

Morocco

Mohammed Maghraoui	Professor, Facult é des Lettres (Faculty of Arts) l'Université de RABAT

Russia

Evgenij I. Kychanov	Director, Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences (St. Petersburg).
Rostislav B. Rybakov	Director, Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences (Moscow).
Server Ebubekirov	Head, The Museum of History & Culture of the Crimian Tatars (Bahcesaray).
Nikolay V. Tsyrempilov	Fellow, The institute of Mongolian, Tibetan and Buddhist studies of the Siberian branch of the Russian Academy of Sciences (Ulan-Ude).

U. K.

Joseph McDermott	Fellow, St. John's College, University of Cambridge.

U. S. A.

Kuniko Yamada Mcvey	Librarian, Harvard-Yenching Library.
Chris Isett	Assistant Prof., Univ. of Minnesota.
Aradyn Bulag	Prof., City Univ. of New York.
Renate Holub	Prof., Head of Interdisciplinary Studies. Univ. of California (Berkeley).
Christin Hess	Prof., Univ. of California (San Diego).

Kenneth R. Robinson	Prof., International Christian Univ.
Richard von Glahn	Prof., Univ. of California (Los Angeles)

Vietnam

Nguyen Thi Oanh	Researcher, Institute of Chinese and Sino Vietnamese Studies, National Center for Social Sciences and Humanity of Vietnam.

iii　研究会等への会場提供サービス

数量＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	12	14	22	15	7	15	12	19	17	10	20	15	178回
参加人数	108	322	200	174	59	174	301	181	176	93	202	97	2,087人

iv　研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報第83巻４号、第84巻１、２、３号	各400部
宋史食貨志譯註（四）	150部
The Diversity of the Socio-economy in Song China 960–1279	80部
近代中国研究彙報　第24号等２種	各50部

v　参考情報提供サービス

【東洋文庫年報】　平成13年度版　Ａ５判　87頁
【宋史食貨志譯註（一）～（四）語彙索引】　Ｂ５判　vii＋123頁
（上記の出版を含めて平成14年度の出版物については、２.「学術図書出版」に一括されているので参照されたい。）

6.職員の研究業績

期間：平成14年４月１日～平成15年３月31日まで
略号：①…著書　②…編著　③…論文　④…学会動向　⑤…書評・紹介
⑥…翻訳　⑦…講演　⑧…その他(評論・雑記・座談会等)

飯島　武次

①『中国考古学概論』(同成社、2003年２月28日、546頁)、③「三星堆遺址出土的青銅器与饕餮紋」(『扶桑与若木』108～125頁、中国巴蜀出版社、2002年４月)。

池田　　温

①『敦煌文書の世界』(名著刊行会、2003年１月、313頁)、②『日中律令制の諸相』(東方書店、2002年３月、本文505頁)、④「シンポジウムⅢ　東アジアにおける文化財の交流――絵画と書籍――」(『東方学会報』82、2002年７月、14～16頁)、"Symposium III: Transmission of Cultural Properties in East Asia: Paintings and Books," *Transactions of the International Conference of Eastern Studies,* No. XLVII, 2002, pp. 138-143、⑤「梅原郁『訳注中国近世刑法志　上』」(『創文』447、〈歴史家の理解する中国法〉、2002年10月、19～22頁)、⑧「大仏頂点に独自の仏寺組織――「東大寺のすべて」展によせて――」(『大阪朝日新聞』、2002年６月15日朝刊、27面)、「研究者としての西川寧先生」(『出版ダイジェスト』1876、2002年６月30日)、「文人西川寧先生」(『書の巨人西川寧』、生誕100周年記念特別展、東京国立博・読売新聞社編、2002年７月、６～19頁)、「西嶋先生の書信」(『西嶋定生東アジア史論集　月報』２、岩波書店、2002年７月、１～４頁)、「江上波夫先生を悼む」(『月刊しにか』14-１（通巻156)、2003年１月、118～119頁)。

石塚　晴通

②『東アジアの印刷史から見た日本印刷文化の起源』(平成13～14年度科学研究費補助金報告書、2003年３月、165頁)、『典籍の国際的交流・受容（訓読)』(平成14年度科学研究費補助金間接経費報告書、2003年３月、118頁)、③"Identifying forgeries of Dunhuang manuscripts on palaeographical analysis and a study of the writing materials"(Dunhuang Manuscripts Forgeries、216～221頁・6abc7ab、The British Library、2002年)、「聖教の形と場――敦煌及び日本の古写・刊本――」(『聖なるものの形と場』、135～147頁、国際日本文化研究センター、2003年３月)、「蔵於中国的仏典日本古写本――以高山寺旧蔵本為中心――」(『近畿地方密教寺院所蔵の国語史料についての綜合的調査研究』、平成11～14年度科学研究費補助金報告書、92

～94頁、2003年３月)、「従敦煌文献及日本訓点史料中得到的中古漢語研究的新成果」(『近畿地方密教寺院所蔵の国語史料についての綜合的調査研究』、平成11～14年度科学研究費補助金報告書、95～97頁、2003年３月)、「敦煌文献中混入日本抄本及偽抄本」(『平成十四年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』、126～124頁、2003年３月)、⑦「関於漢語史研究資料以及敦煌写本和日本訓点資料」(姜亮夫・蒋礼鴻・郭在貽紀念会漢語史・敦煌学国際学術研討会、杭州、2002年５月25日)、「シルクロードと源氏物語・香」(札幌シルクロードの会十五周年記念講演、札幌、2002年８月15日)、「典籍の国際交流」(北海道大学国語国文学会平成14年度秋季大会公開講演、札幌)。

井上　和枝

①『民族・戦争と家族』(日本家族史論集13、大日方純夫編、「朝鮮家族史序説」、56～78頁、吉川弘文館、2003年５月、本文373頁)、③「朝鮮後期の駅村と駅民――慶尚道晋州府召村里戸籍大帳を中心に」(『学習院大学東洋文化研究所研究調査報告』51、82～122頁、2002年３月)、「朝鮮時代の駅吏について――駅吏の身分変化と存在様態を中心に――」(『地域総合研究』第30巻第１号、鹿児島大学付属地域総合研究所、１～24頁、2002年９月)、④「高麗時代の『烈女』と『悪女』」(唐代史研究会夏季シンポジウム、2002年７月14日)、「朝鮮新女性の『近代』受容と『近代』体験――恋愛からファッションまで――」(朝鮮韓国文化研究会第３回研究大会、2002年10月26日、東京大学)、⑤「金俊亨他『近代社会変動と両班』」(朝鮮史研究会１月例会、2003年１月26日、専修大学)。

内山　雅生

①『現代中国農村と「共同体」――転換期中国華北農村における社会構造と農民――』(御茶の水書房、2003年２月、271頁)、②『興亜院と戦時中国調査　付刊行物所在目録』(〈本庄比佐子・久保亨と共編〉、岩波書店、2002年11月、382頁)、③「華北連絡部の資源調査と華北農村」(『興亜院と戦時中国調査』、176～197頁、岩波書店、2002年11月)、「『中国農村慣行調査』と再調査から見た中国華北農村社会」(『駿台史学』117、67～75頁、駿台史学会、2003年２月)。

海野　一隆

①『地図的文化史』(王妙発訳、中華書局〈香港〉、2002年５月、191頁)、『東西地図文化交渉史研究』(清文堂出版、2003年１月、758頁)、③「ちくらが沖――合わせて磁石山も――」(『ビブリア』〈天理図書館報〉117、３～18頁、天理図書館、2002年５月)、「中井家旧蔵の『日本国中図』」(『地図』40-４、１～９頁、日本国際地図学

会、2003年３月)、⑧「地図の裏」(『古地図研究ニュース』37、１～２頁、日本古地図学会、2002年４月)、「“はや”と“あな”」(『Identity for Myself』４、39～42頁、常安孝〈北九州市〉発行、2002年６月)、「むくり」(『日本古書通信』67-10、４～５頁、日本古書通信社、2002年10月)、「間宮林蔵の測量術の師」(『日本古書通信』68-３、７～９頁、日本古書通信社、2003年３月)。

岡田　英弘

①『Segyesa-eui Tansaeng』(『世界史の誕生』韓国語版、I Jinbog訳、Hwanggeum Gaji刊行、2002年５月27日、244頁)、③「瀋陽領事館事件を中国人はどう見るか」(『EL RICO』60、１～２頁、(株) エル・リコ、2002年６月21日)、「「日本人は中国人を知らない」という事実をまず知ることから始めよ」(『日本の論点2003、せとぎわの選択』、218～221頁、(株) 文藝春秋、2002年11月10日)、⑦“Japanese Autobiography of John Gombojab Hangin: A Mongolian Poet and Nationalist.” The 8th International Congress of Mongolists, Ulaanbaatar, Mongolia, 2002.8.9.、“*The Secret History of the Mongols*: When it was written.” The 8th International Congress of Mongolists, Ulaanbaatar, Mongolia, 2002.8.15.、⑧「「経営者の意識を変えろ」中国に対する大きな勘違いとは？」(要旨『ビジネススタンダード』2002-４、100～101頁、ソフトバンクパブリッシング (株)、2002年４月１日)、「日本人は中国人とどうつきあうべきか」(新しい日本つくりフォーラム21、赤坂プリンスホテル赤瑛の間、2002年５月９日)、「日本人は中国人とどうつきあうべきか」(静岡政経懇話会、ブケ東海静岡４階、2002年６月13日)、「中国人とのつき合い方」(道路新産業開発機構、ルポール麹町２階ロイヤルクリスタルの間、2002年６月18日)、「国際アルタイ学会の思い出」(モンゴルを語る会、駒込小松庵２階、2002年７月１日)、“Delkhiin Tüükh Mongoloos Ekhtei (世界史はモンゴルから始まった)” (インタヴュー記事、モンゴル国日刊紙『Önöödör (ウヌードゥル) / Today』、2002年８月８日、１・８頁)、「中国と上手につき合うための常識」(ジャパン・プレジデンツ・ネットワーク・ホテル日航大阪５階JPNサロン鶴の間、2002年８月28日)、「歴史とはなにか――古代とはどういう時代か――」(古代を学ぶ会、中野区勤労福祉会館、2002年９月11日)、「この厄介な国、中国」(あけぼの会、沼袋地域研究センター (洋３)、2002年９月25日)。

糟谷　憲一

⑤「李成茂著『朝鮮時代党争史』一・二」(『朝鮮史研究会会報』147、23～26頁、朝鮮史研究会、2002年４月)。

神田　信夫

⑦「満洲語史料と琉球」（満族史研究会第17回大会、沖縄県公文書館、2002年６月１日）、⑧「内藤湖南的満学研究」（閻崇年主編『満学研究』５、261～264頁、北京民族出版社、2000年12月）、「石橋秀雄氏の逝去を悼む」（『満族史研究』１、162頁、満族史研究会、2002年５月）、「ヘトゥアラ城再訪」（『歴史と地理』556、45～46頁、山川出版社、2002年８月）、「琉球と満洲語史料」（『東方』263、８～12頁、東方書店、2003年１月）、「尋常科の台湾人級友」（『獅子頭山讃歌　自治と自由の鐘が鳴る』、87頁、旧制台北高等学校記念文集刊行委員会、2003年２月）、「駿台史学会設立五十周年に当って」（『駿台史学』117、12～17頁、駿台史学会、2003年２月）。

岸本　美緒

①『東アジアの中の中国史』（浜口允子との共著、財団法人放送大学教育振興会、2003年３月、199頁）、③「清朝皇帝の南巡と民衆」（『アジア民衆史研究』７、2002年５月、１～11頁）、「皇帝と官僚・紳士」（網野善彦等編『岩波講座　天皇と王権を考える　２　統治と権力』、241～266頁、岩波書店、2002年６月）、「『風俗』与歴史観」（『新史学』13-３、１～20頁、2002年９月）、④「市場と社会秩序」（社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』、199～210頁、有斐閣、2002年８月）、「総論時代区分論の現在」（歴史学研究会編『歴史学における方法的転回　現代歴史学の成果と課題　1980-2000年　Ⅰ』、74～90頁、青木書店、2002年12月）、⑤「柯志明著『番頭家――清代台湾族群政治与熟番地権――』」（『アジア経済』43-７、61～64頁、2002年７月）、「濱島敦俊『総管信仰――近世江南農村社会と民間信仰――』」（『史学雑誌』111-８、80～87頁、2002年８月）、⑧「文人の蘇州、民間の蘇州――辺境都市から地上の天国へ――」（『週刊朝日百科　世界100都市　ここに行きたい』26、６～９頁、2002年６月）、「追悼　田中正俊先生」（『史学雑誌』112-１、112～114頁、2003年１月）、"In Memory of the Late Professor Tanaka Masatoshi," *The Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko,* No. 60, 2002, pp. 117-121。

草野　　靖

③「両税法の歴史的地位（上）、（下）」（『福岡大学人文論叢』34-２、1145～1184頁・34-３、1763～1806頁、福岡大学研究推進部、2002年９月・12月）。

久保　　亨

①『興亜院と戦時中国調査』（岩波書店、2002年11月、381頁）、『周辺から見た20世紀中国――日・韓・台・港・中の対話――』（中国書店、2002年12月、343頁）、⑤「森時彦著『中国近代綿業史の研究』（『歴史学研究』771、54～57頁、歴史学研究

会、2003年１月)、⑦「民国時期上海的工業金融――以金城銀行対於棉紡工業的金融為例――」(国際シンポジウム「上海金融的現代化与国際化」、復旦大学、2002年５月27～28日)、"The Koa-in (The Asia Development Board) and its Research on China" (Joint Research Conference "Wartime China: Regional Regimes and Conditions, 1937-45"、ハーバード大学、2002年６月27～29日)、"China's Economic Development and the International Order in Asia, 1930s-50s" (XIII IEHA Congress 第13回国際経済史学会、Session 8: International Order of Asia in the 1930s and 1950s、ブエノスアイレス、2002年７月22～26日)、「中国企業経営史上的華僑和留学生――"周辺因素"影響下的経済発展――」(国際シンポジウム「企業制度・企業家精神・都市経済関係」、上海社会科学院経済研究所、2002年８月10～12日)、「興亜院与戦時日本之中国調査」(国際シンポジウム「生活・知識及び中国における近代性」、中央研究院近代史、2002年11月21～22日)、⑧「ブエノスアイレス体験」(『ラテンアメリカ　レポート』19-２、１頁、2002年11月)。

窪添　慶文

③「従籍貫・居住地・葬地所見的北魏宗室」(『国際中国学研究』５、260～282頁、韓国中国学会、2002年12月)、⑦「従籍貫・居住地・葬地所見的北魏宗室」(第22回中国学国際会議、2002年８月、韓国中国学会)、⑧「西嶋定生東アジア史論集第３巻『東アジア世界と冊封体制』解題」(『東アジア世界と冊封体制』391～401頁、岩波書店、2002年７月)。

熊本　　裕

⑤ *Proceedings of the Third International Conference of Iranian Studies, Part 1: Old and Middle Iranian Studies* (Wiesbaden 1998) [*Bulletin of the Asia Institute* Vol. 13 (1999 [2002]), pp. 196-201]、⑦ "The Maitreya-samiti and Khotanese" (東京大学・フランス高等研究院 Ecole Pratique des Hautes Etudes 共催によるシンポジウム『ユーラシアにおける文化変転：文献資料と造形資料の伝統』、パリ、2002年12月12～13日)、"Marginalia Hvatanica" (『三科研合同研究会――ユーラシアの言語・過去と現在――』、京都大学羽田記念館、2003年３月16日)。

小松　久男

② Muḥammad Yūnus Khvāja b. Muḥammad Amīn Khvāja Tā'ib, *Tuḥfa-yi Tā'ib*, ed. By B. M. Babadjanov, Sh. Kh. Vakhidov, Kh. Komatsu, Tashkent-Tokyo, 2002, 12＋32pp.、③ "Reform and Rebellion in Central Asia at the Turn of the 20th Century: The Search for a True Islam," Andrea Strasser ed., *Zentralasien und*

Islam, Mitteilungen/Deutsches Orient-Institut; Bd. 63, Hamburg, 2002, pp. 59-65、後藤寛・小松久男「フェルガナ・プロジェクト：地理情報システムによる地域研究の試み」(『地理情報システム学会講演論文集』11、373～376頁、2002年)、⑦「中央アジアのイスラーム復興：フェルガナ地方を中心に」(慶応義塾大学地域研究センター、2002年5月21日)、「イシャーン：中央アジアの聖者と政治」(アジア理解講座「イスラーム理解のためのキーワード」、国際交流基金、2002年7月10日)、「ジャポンヤ：イスラーム世界と日本」(アジア理解講座「イスラーム理解のためのキーワード」、国際交流基金、2002年7月17日)、「大宛国のイスラーム復興：フェルガナ盆地から見た中央アジア史」(日本イスラム協会公開講演会「中央アジアの基層文化とイスラーム」、立教大学、2002年11月30日)、「韃靼人イブラヒムの軌跡――イスラーム世界・ロシア・日本――」(九州史学会大会公開講演、九州大学、2002年12月14日)、⑧(事典項目)「ウズベキスタン」「トゥルクメニスタン」「タジキスタン」「タジキスタン・イスラーム復興党」「ブハーラー」「東干」など、片倉もとこ他編『イスラーム世界事典』、明石書店、143～144・284・258～259・289・329頁、2002年3月)、「中央アジアのコンスタンティノープル」(『多分野交流ニューズレター』38、東京大学大学院人文社会系研究科、2～6頁、2002年7月)、「遊牧の民　オアシスの民：ブハラ都市物語」(『中央アジア：サマルカンドとブハラ(週刊朝日百科・世界100都市)』、6～9頁、2002年7月)、(事典項目)「ウズベキスタン」「中央アジア」「トルクメニスタン」「ニヤゾフ」(梅棹忠夫監修『新訂増補・世界民族問題事典』、平凡社、1271・1291・1295・1297頁、2002年11月)、「中央アジアの多様な世界：文明の重層と複合」「ロシア・ムスリムの改革と反乱：ジャディード運動とアンディジャン蜂起」「フェルガナ盆地のイスラーム復興：草の根の信仰と「原理主義」」、宇山智彦編『中央アジアを知るための60章』、明石書店、20～24・60～64・243～247頁、2003年3月)。

酒井　憲二

③「甲陽軍艦の伝写に見る中近世移行期の語詞」(『国語と国文学』80-2、43～58頁、東京大学国語国文学会、2003年2月)、「『新明解』の先見性二題」(『桜文論叢』55、187～191頁、日本大学法学部桜文論叢編集委員会、2002年8月)、⑧「山田忠雄先生の人間像」(『明解物語』、柴田武監修・武藤康史編、311～326頁、三省堂、2001年4月)、『上村勝美遺稿』(複製、私家版、130頁、2000年6月)。

桜井　由躬雄

②『世界史B』(尾形勇・後藤明・福井憲彦・本村凌二・山本秀行・西浜吉晴との共編、東京書籍、2002年4月、404頁)。

佐藤　次高

③「イスラームの国家と王権」(『天皇と王権を考える』1、235～255頁、岩波書店、2002年4月)、④「西アジア・イスラーム研究の新展開」(『学術月報』55-4、19～21頁、2002年4月)、"Islamic and Middle Eastern Studies in Japan since 1945," Special Issue: Middle Eastern and Islamic Studies in Japan, *Annals of Japan Association for Middle East Studies,* No. 17-2, pp. 17-32, 2002、⑦「イスラームの人間観」(九州大学開学記念講演、2002年5月10日、『九州広報』25、24頁、2002年8月)、"The Sufi Legend of Sultan Ibrāhīm b. Adham," World Congress for Middle Eastern Studies, Mainz, September 11, 2002、「イスラム史のなかの技術革新」(第2回国際シンポジウム「イスラムとIT」、早稲田大学、2002年10月12日、『イスラムとIT』36～42頁、2003年2月)、「マムルーク朝時代の奴隷商人とカーリミー商人」(イスラーム考古学25周年記念講演会、中近東文化センター、2002年11月24日)、「アジア史研究の新地平――イスラーム研究を中心に――」(史学会第100回記念大会シンポジウム、東京大学、2002年11月10日、『史学雑誌』111-12、101～102頁、2002年12月)、「『聖者イブラーヒーム伝説』補遺」(文化交流研究懇談会、東京大学文学部、2003年2月5日)、「イスラーム地域研究とスーフィー聖者」(早稲田大学東洋史懇話会第28回大会講演、早稲田大学、2003年2月26日)、⑧「イスラーム研究の新地平」(『読売新聞』夕刊、2002年4月16日)、「21世紀の地域研究と図書館の役割」(『アジ研ワールド・トレンド』90、巻頭エッセイ、2003年3月)。

滋賀　秀三

①『中国法制史論集(法典と刑罰)』(創文社、2003年1月、630頁)

妹尾　達彦

⑦"Joys, Sorrows and Dreams: The Birth of Civil Service Examination Society in Ninth Century China," *New Perspectives on the Tang: An International Conference,* Princeton University, April 19, 2002、「空間と歴史、場所と記憶:長安と北京の都市計画」(早稲田大学、比較都市史研究会、2002年4月27日、『比較都市史研究』21-1、10～11頁、2002年)、「恋愛――唐代における新しい男女認識の構築――」(唐代史研究会2002年度夏季シンポジュウム、箱根静雲荘、2002年7月13日)、「壁に囲まれた時代から壁が崩れてゆく時代へ、そしてこれから――中国の都市居住の変容――」(財団法人住宅総合研究財団シンポジュウム「都市居住の普遍と変容、住宅総合研究財団、2003年11月6日」)、⑧「栄華の都　長安の面影を探して」(『週刊朝日百科・世界100都市　西安』22、12～15頁、2002年4月)、「中国の五つの都――ユーラシア東部の歴史を投影する都の変遷――」(『月刊しにか』2002年7月号、

16～21頁、2002年)、「学会参加報告“唐宋婦女史研究与歴史学”国際学術研討会：2001年6月5日～9日、北京大学」(『唐代史研究』5、135～138頁、2002年)、「フォーラム」(『比較都市史研究』21-2、1頁、2002年12月)、「壁に囲まれた時代から壁が崩れてゆく時代へ、そしてこれから――中国の都市居住の変容――」(『すまいろん』季刊2003年冬号、7～13頁、2003年1月)、「追悼　史念海教授　1912.6-2001.3」(『唐代史研究』5、168～170頁、2002年)、辞典執筆項目「都市（中国の)」「坊」(尾形勇編『歴史学辞典』弘文堂、2003年2月)。

クリスチャン　ダニエルス

②『中国雲南徳宏傣文古籍編目』(尹紹亭・快永勝・岳小保との共編、雲南出版社、2002年12月、5＋36＋881頁) ③ “Lo zucchero,” *Storia Della Scienza,* Estratto Dal Volume II Cina, India, Americhe, pp. 552–555, 559–560, Istituto Della Enciclopedia Italiana, 2001、⑦ “Do you prefer working sitting or standing?; Preliminary remarks on the body-tool relationship in South-Western China and continental South-East Asia,” Inter-Congress The Human Body in Anthropological Perspectives of IUAES 2002, Toshi Center Hotel, Tokyo, 27th September 2002、「技術からみたタイ文化圏の歴史――生態史の構築に向けて――」(綜合地球環境学研究所主催「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史モデルの構築」プロジェクト、京都、総合地球環境学研究所にて、2002年9月6日)。

竺沙　雅章

③「宋代宮廷の葬送と禅宗教団」(鈴木哲雄編『宋代禅宗の社会的影響』、345～358頁、山喜房仏書林、2002年11月)、「那波利貞先生の敦煌文書研究」(高田時雄編『草創期の敦煌学』、167～175頁、知泉書館、2002年12月)、「漢文大蔵経の歴史――特に宋元版大蔵経について――」(『斯道文庫論集』37、1～31頁、慶応大学斯道文庫、2003年2月)、「居延漢簡中の社文書」(冨谷至編『辺境出土木簡の研究』、341～365頁、朋友書店、2003年2月)、⑦「漢文大蔵経の歴史――特に宋元版大蔵経について――」(神田寺記念公開講座「書物と日本仏教」第一回、慶応大学、2002年10月18日)、「中国より見た日本の一切経」(第87回大蔵会、大谷大学、2002年11月16日)、「敦煌写経の歴史」(平成15年度有道・祖門合同研修会、福知山、サンプラザ万助、2003年3月6日)。

辻本　裕成

③「隠喩としての「虫」――泉鏡花『由縁の女』川端康成『山の音』安部公房『砂の女』――」(長谷川雅雄・ペトロ＝クネヒト・美濃部重克、『アカデミア　人文社

会科学編』76、47～101頁、南山大学、2003年１月)、「祐倫と『源氏物語』補遺――教養形成と『源氏物語』――」(『南山大学日本文化学科論集』３、１～13頁、南山大学日本文化学科、2003年３月)。

鶴見　尚弘

⑦「独立行政法人問題――公立大学等に関する懇談会の経過と今後の課題――」(平成14年度全国公立短期大学第52回通常総会、秋田公立美術工芸短期大学、2002年５月30日)、「４年制大学化への取組について――山梨県立女子短期大学の四大化への事例から――」(学園都市フォーラム「米沢女子短大の４年制化を目指して」、グランドホクヨウ米沢、2003年３月10日)、⑧「21世紀にふさわしい公立短期大学・全国公立短期大学協会を目指して」(『公短協』45、全国公立短期大学協会、2002年10月18日)、「田中正俊先生を偲んで」(『東洋学報』84-４、528～534頁、(財) 東洋文庫、2003年３月)。

鳥海　　靖

①『動きだした近代日本――外国人の開化見聞――』(教育出版、2002年12月、193頁)、②『現代の日本史』(鳥海靖・三谷博・渡辺昭夫・野呂肖生、山川出版社、2003年３月、176頁)、③ "L'environment international du Japon moderne et la Politique etrangere; de la seconde moitie du XIXe siede aux debuts du XXe," Comprendre Le Japon: Perspectives sur l'histoire moderne du Japon, No. 99, pp. 40-51, 2002. 7., ISEI, Tokyo、⑤「五箇条の誓文」(『歴史と地理』562〈「日本史の研究」200号〉、103～107頁、山川出版社、2003年３月)、⑦「日本の近代化と国際摩擦」(韓国中学高校教員グループ招聘事業研修会議、2002年９月20日、国際交流基金主催、東京)、「総論――日韓の歴史相互理解のために――」(日韓教育会議、2002年12月13日、国際教育情報センター・韓国教育開発院共催、東京)、「日本の歴史教科書の中のフィリピン」(日本・フィリピン歴史・地理会議、2003年１月20日、国際教育情報センター共催、東京)、「国際的な歴史相互理解のために」(第３回ロシア連邦歴史教育会議総括会議、2003年３月22日、欧州評議会)〈Council of Europe〉・ロシア連邦教育省ケルゼン州立教育大学教育改革国際研究所共催、サンクト・ペテルブルグ)、⑧「近代天皇論――〈天皇〉は二人いた――」(鳥海靖・半藤一利・秦郁彦・平川祐弘、『歴史諸君！』〈『諸君！』５月臨時増刊号34-６〉、90～107頁、文藝春秋社、2002年５月)、「総特集靖国神社――十問十答36人アンケート――」(『諸君！』34-10、136～137頁、文藝春秋社、2002年９月)、「近現代史百年曇りなき歴史の常識――明治維新の本質、明治憲法再評価――」(鳥海靖・岡崎久彦・福地惇・八木秀次、『諸君！』35-２、188～214頁、文藝春秋社、2003年２月)。

中嶋　敏

①『東洋史学論集　続編』(汲古書院、2002年６月、384頁)、②『宋史食貨志譯註(四)』((財) 東洋文庫、2002年５月、11＋400＋130頁)、③ "The Vitriol Copper Process during the Song," *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko,* No. 60, pp. 1-17, 2002。

中野　真麻理

③「梟の懸想文――越後米山薬師のこと――」(『説話論集』11、113～148頁、清文堂出版社株式会社、2002年８月)、「文学研究と絵画資料――梅に宿る木菟――」(文部科学省科学研究費補助金「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」、287～296頁、国文学研究資料館、2003年３月)。

中見　立夫

③「内外満学劄記」(『満族史研究』１、113～123頁、満族史研究会、2002年５月)「《盛京宮殿舊藏漢文旧档》和所謂「喀喇沁本蒙古源流」」(馮明珠主編『文獻與史學：恭賀陳捷先教授七十嶋壽論文集』、414～432頁、台北：遠流出版事業股份有限公司、2002年７月)、「歴史のなかの "満洲"」(『環【歴史・環境・文明】：【特集】満洲とは何だったのか』10、79～87頁、藤原書店、2002年７月)、「様々な "満洲国" 体験――満洲国の外交官と満洲国へ行った台湾人――」(『ニューズレター』第14号、３～25頁、近現代東北アジア地域史研究会、2002年12月)、"Some Remarks on the *Emu tanggû orin sakda i gisun sarkiyan*", (*Tunguso-Sibirica 8*, edited by Carsten Naeher, Giovanni Stary and Michael Weiers, pp. 77-93, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2002)、"Mongol Nationalism and Japan," (*Imperial Japan and National Identities in Asia, 1895-1945*, edited by Li Narangoa and Robert Cribb, pp. 90-106, London and New York: Routledge Curzon, 2003)、④「2002年度アジア政経学会東日本大会」(『通信』105、12～13頁、アジア・アフリカ言語文化研究所、2002年７月25日)、「研究セミナー：東北ユーラシア地域史研究のフロンティア」(同上誌、33-34頁)、「研究セミナー：ロシア帝国と東アジア――外交関係と文書史料――」(『通信』107、26～27頁、アジア・アフリカ言語文化研究所、2003年３月25日)、⑦"Т. М. Семенов ба Монголын отряд" (The 8th International Congress of Mongolists, 2002年８月８日, Ulaanbaatar: Mongolian National University)、「近代モンゴルにおける "新聞" ――その意味と保存状況――」(シンポジウム「モンゴルの出版文化」、2002年11月15日、大谷大学)、「第八回国際モンゴル学者大会――組織と運営――」(日本モンゴル学会2002年度秋季大会、2002年11月16日、龍谷大学)、「乾隆帝的 "世界" 認識」(「十八世紀的中国与世界」学術研討会、2002年12月13日、要旨：『「十八世紀的中国与世界」学術研討会

大会手冊』、29～33頁、台北：国立故宮博物院)、⑧「19～20世紀初頭におけるモンゴル出版文化の社会史的考察」(『東アジア出版文化の研究～学問領域として書誌・出版の研究を確立するために～［2001年度版］』、71～72頁、磯部彰、2003年３月)、「私のすすめる歴史小説」(『日本歴史』656、95～96頁、日本歴史学会、2003年１月)「チョク（Dular Osor Chog/杜拉爾・朝克）さんのこと」(『通信』107、20頁、アジア・アフリカ言語文化研究所、2003年３月25日)、「江上波夫元副会長のことども、追悼断片」(『紀要』33、83～86頁、日本モンゴル学会、2003年３月31日)、「楊志玖教授を偲んで」(同上誌、87～91頁)

永積　洋子

⑦「日本から見た「交易の時代」」(東南アジア史学会シンポジウム「交易の時代」後期における東南アジアの歴史変化を考える、神田外語大学、2002年６月２日)。

林　　俊雄

③"Several Problems about the Turkic Stone Statues," *Yearbook of Turkic Studies, Belleten 2000*, Ankara, Turkish Language Institution, 2001, pp. 221-240、「遊牧民族の王権――突厥・ウイグルを例に――」(『岩波講座　天皇と王権を考える３　生産と流通』、115～139頁、岩波書店、2002年10月)、「ユーラシア草原における馬の埋納遺跡（スキタイ時代以前)」(小長谷有紀編『北アジアにおける人と動物のあいだ』、103～157頁、東方書店、2002年12月)、"Uigur Policies toward Tang China," *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko,* No. 60, pp. 87-116, 2002、⑥「タバルディエフ、ソルトバエフ著「天山山中のルーニック碑文を伴う岩画」」(『シルクロード研究』３、41～49頁、2002年３月)、「クリャシュトルヌィ著「中央天山で発見された古テュルク・ルーニック碑文」」(『シルクロード研究』３、51～56頁、2002年３月)、⑧"In Memory of the Late Professor Egami Namio," *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko,* No. 60, 2002, pp. 123-129。

原　　實

③"Pā'supata Doctrine as Transmitted by Vedāntins," *Indologica Taurinensia,* Volume XXV, 1999-2000, pp. 247-260、「古代インドの女性観」１（『国際仏教学大学院大学紀要』５、230～189頁)、⑦"Weapons of Virtue," 12.12.2002, 25th Conference of the International Association of Buddhist Studies, held in Bangkok, Thailand、⑧"In Memoriam J. W. de Jong (15.2.1921-22.1.2000)," *Journal of the International Association of Buddhist Studies,* Volume 24 No. 1 (2001), pp. 1－5、「故平川彰会員追悼の辞」(『日本学士院紀要』57－２、１～５頁)。

深沢　眞二

③「新古ふた道――芭蕉・元禄二年連句の旅――」(『江戸文学』26、18～31頁、ぺりかん社、2002年９月)、「素然永雄両吟和漢千句覚書」(『文学』隔月刊３－５、28～41頁、岩波書店、2002年９月)、「連歌寄合書『随葉集』古活字版索引」(『近世初期文芸』19、99～150頁、近世初期文芸研究会、2002年12月)、「謎といふ句」(『国語国文』72－２、140～160頁、京都大学国語学国文学研究室、2003年２月)、⑦「ほととぎす・蓑虫・蛙（かわず)」((財）東洋文庫春期東洋学講座、2002年５月16日、要旨：『東洋学報』84－２、38～40頁、(財）東洋文庫、2002年９月)。

古屋　昭弘

②『日漢詞典』(杉本達夫・牧田英二、外文出版社、2002年５月、624頁)、④「近20年来中国語音韻史海外研究動向」(『慶谷壽信教授退休記念中国語学論集』、好文出版、2002年11月)、⑤『老乞大――朝鮮中世の中国会話読本――』(『中国語学研究開篇』21、268～272頁、好文出版、2002年４月)、⑦「正字通反切的語音系統」(李方桂記念漢語史国際シンポジウム、2002年８月15日、シアトル・ワシントン大学)。

堀　　敏一

①『唐宋五代変革期の政治と経済』(汲古書院、2002年７月、520頁)、③「隋と唐はなぜ『世界帝国』となりえたのか」(『月刊しにか』2002年４月号、50～55頁、大修館書店)、「劉邦の亭長時代」(『歴史と地理』554、35～36頁、山川出版社、2002年５月)。

三浦　　徹

③ "Area Studies as a Third Path between the Humanities and Social Science: The Potentials of Comparative Study," *Islamic Area Studies Working Paper Series* No. 32, 2002、「人と都市とネットワーク：イスラーム史における地域」(『国家像・社会像の変貌：現代歴史学の成果と課題1980-2000年Ⅱ』青木書店、208～222頁、2003年２月)、⑤「ジェームズ・A・レイリー著『シリアのある小都市：オスマン時代18-19世紀のハマー』」(『東洋学報』84－２、081～088頁、2002年９月)。

森安　孝夫

③ "Uighur Buddhist Stake Inscriptions from Turfan," L. Bazin & P. Zieme eds., *De Dunhuang à Istanbul. Hommage à James Russell Hamilton,* (Silk Road Studies 5), Turnhout (Belgium), Brepols, 2001, pp. 149-223、"On the Uighur Buddhist Society at Čiqtim in Turfan during the Mongol Period," In: Mehmet Ölmez /

Simone-Christiane Raschmann eds., *Splitter aus der Gegend von Turfan, Festschrift für Peter Zieme, anlaßlich seines 60. Geburtstags,* (Türk Dilleri Araştırmaları Dizisi 35) , Istanbul / Berlin, 2002.4., pp. 153-177、「ウイグルから見た安史の乱」(『内陸アジア言語の研究』17、117～170頁、中央ユーラシア学研究会、2002年9月)、"Uighur Inscriptions on the Banners from Turfan Housed in the Museum für Indische Kunst, Berlin," In: Chhaya Bhattacharya-Haesner, *Central Asian Temple Banners in the Turfan Collection of the Museum für Indische Kunst, Berlin,* Berlin, Dietrich Reimer Verlag, 2003.1., pp. 461-474、⑧「大谷探検隊とその将来品――モンゴルの調査――」(『本願寺新報』、2001年6月10日)、"The West Uighur Kingdom and Tun-huang around the 10th -11th Centuries," *Annual Report of Osaka University, Academic Achievement 2000-2001*, 2001, p. 50、「大谷探検隊とその将来品――ベゼクリクの二重窟――」(『本願寺新報』、2002年11月10日)。

柳田　征司

③「濁音の前の鼻母音」(『国語と国文学』79-11、1～10頁、東京大学国語国文学会、2002年11月)、「抄物の一種としての節用集」(『日本語日本学研究』3、13～30頁、国際日本語日本学研究会、2002年11月)、「和語の撥音と漢語の撥音――『天草版伊曽保物語』の場合――」(『近代語研究』11、41～55頁、近代語学会、2002年12月)、「複合によって語中に生じた母音連続における母音の脱落」(『国語学』54-1(212)、1～15頁、国語学会、2003年1月)、⑤「書評　山田潔著『玉塵抄』の語法」(『国語と国文学』79-12、73～77頁、東京大学国語国文学会、2002年12月)、⑦「龍門文庫の抄物」(「特別陳列　龍門文庫　知られざる奈良の至宝」、奈良国立博物館、2002年12月21日)、⑧「江湖風月集抄」「長恨歌伝・琵琶引(清原宣賢筆)」「燈前夜話」「十因聞書要目」「周易」「洗心経」「仏果円悟真覚禅師心要」「月庵和尚仮名法語」「小学集説」「七書」「文選(直江版)」「御書」「吉野山独案内」「和州芳野山勝景図」「古事記燈」「新撰字鏡　存巻上(狩谷棭斎手写書入れ)」「宋太宗御書急就篇・王応麟補注急就篇・同注続急就篇」(奈良国立博物館編『特別陳列　龍門文庫　知られざる奈良の至宝』、2002年11月、51～57・62・63・72～75・82・83・91・95・96頁)、「53持つ　になう(支持)」「54使う　操る(利用・操作)」「55及ぶ　届く(到達)」(柴田武・山田進編『類語大辞典』、826～851頁、講談社、2002年11月)、「高山寺蔵『無門関』(一)」(『平成十四年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』、5～13頁、高山寺典籍文書綜合調査団、2003年3月)。

柳田　節子

③「宋代的父老――関於宋代専制権力的農民支配――」(本書編集委員会編『漆侠

先生記念文集』、331～338頁、河北大学出版社、2002年10月)。

山内　弘一

③「学習院大学図書館所蔵昌寧県戸籍大帳について」(学習院大学東洋文化研究所『調査研究報告』51、武田幸男編『朝鮮後期の慶尚道における社会動態の研究――学習院大学蔵朝鮮戸籍台大帳の基礎的研究（４）――』所収、１～27頁、2002年３月)、「十九世紀昌寧県の郷吏について――『戸籍大帳』による事例分析――」(『朝鮮学報』185，１～40頁、朝鮮学会、2002年10月)、「朝鮮を以て天下に王たらしむ――学習院大学蔵『箕子八條志』にみる在野老論知識人の夢――」(『東洋学報』84-３、１～31頁、(財) 東洋文庫、2002年12月)。

山根　幸夫

②『佐久間重雄先生米寿記念明代史論集』(奥崎・金沢・飯田共編、汲古書院、2002年６月、365頁)、③「日本明代社会経済史開拓者清水泰次（1890-1961)」(『中国社会経済史研究』2002-２、１～２頁、中国社会経済史研究編輯部、2002年６月)、「崇禎12年山東済南城陥落」(『佐久間重男先生米寿記念明代史論集』、321～340頁、汲古書院、2002年６月)、④「2001年日本明代史研究論著目録」(『明代史研究』30、116～119頁、明代史研究会、2002年４月)、「韓国明史論著目録」(『明代史研究』30、120～122頁、明代史研究会、2002年４月)、⑧「栗林宣夫教授を偲ぶ」(『明代史研究』30、１～４頁、明代史研究会、2002年４月)、「清水泰次博士逝去40周年」(『明代史研究』30、71～74頁、明代史研究会、2002年４月)、「編集後記」(『汲古』41、58頁、汲古書院、2002年６月)、「編集後記」(『汲古』42、63頁、汲古書院、2002年12月)、「あとがき」(『佐久間重男先生米寿記念明代史論集』、364～365頁、汲古書院、2002年６月)。

吉田　　寅

③「『宋史食貨志　塩』譯註序説――付、宋元塩業史研究文献目録――」(『立正大学東洋学論集』14、41～54頁、2002年９月30日)、⑤「丁韙良主編『中西聞見録』内容目録――洋務運動期における宣教師刊中国語定期刊行誌――」(『異文化交流』41、１～20頁、2002年４月30日)、「何群雄著『中国語文法学事始――「馬氏文通」に至るまでの在華宣教師の著書を中心に――』」(『キリスト教史学』56、192～195頁、2002年７月15日)。

渡辺　紘良

③「宋代的八路定差法与使闕」(国際宋史研討会暨中国宋史研究会第九届年会編刊、

漆侠主編『宋史研究論文集』、62～71頁、河北大学出版社、2002年７月)、「中国国家図書館所蔵「京師全図」下絵について（２)」(『獨協医科大学教養医学科紀要』25、３～16頁、2002年12月)。

和田　恭幸

③「『阿倍晴明物語』の世界」(『国文学　解釈と鑑賞』67－６、99～104頁、至文堂、2002年６月)、「狗神小考――『伽婢子』と近世の仏書――」(『鯉城往来』５、25～31頁、広島近世文学研究会、2002年12月)、「新出三冊本『信長公記』小考」(『国文学研究資料館紀要』29、171～187頁、国文学研究資料館、2003年２月)。

付表　財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧

（平成15年３月31日現在）

研究員名	研究課題
荒　松　雄	南アジア史における民族・宗教と国家
飯　尾　秀　幸	中国古代国家史の研究
飯　島　武　次	殷周時代の考古学研究
池　田　　温	中国古代・中世史、前近代東亜文化交流史
池　端　雪　浦	フィリピン史
石　井　米　雄	タイ史・三印法典の研究
石　塚　晴　通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石　橋　崇　雄	清朝政治史
市　古　宙　三	太平天国及び中国共産党の研究
井　上　和　枝	李氏朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
上　野　英　二	平安朝文学の研究
内　山　雅　生	近代中国華北農村経済史の研究
宇都木　　章	春秋時代政治史
梅　田　博　之	現代朝鮮語の記述的研究
梅　村　　坦	ウイグル民族誌、内陸アジア史
海　野　一　隆	東洋地理・地図学の研究
大　江　孝　男	現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究
太　田　幸　男	秦墓竹簡の研究
大　谷　俊　太	室町・江戸時代文学の研究
岡　田　英　弘	北アジア史
小　名　康　之	インド・ムガール朝史の研究
風　間　喜代三	印欧語の比較言語学的研究
糟　谷　憲　一	18-19世紀朝鮮政治史の研究
片　山　章　雄	中央アジア古代史の研究
加　藤　直　人	清朝の民族統治政策・清代珈案史料の研究
辛　島　　昇	南アジア史
川　崎　信　定	チベット仏教の展開
神　田　信　夫	清朝興起史
菊　池　英　夫	唐宋時代の行政および法制
岸　本　美　緒	明清時代地方社会史の研究
北　村　　甫	現代チベット語諸方言の記述的研究
草　野　　靖	宋代税財政史
久　保　　亨	中国近現代史研究

研究員名	研究課題
窪添慶文	魏晋南北朝時代史の研究
熊本裕	イラン語史の研究
氣賀澤保規	魏晋南北朝隋唐時代の政治社会文化史研究
後藤明	イスラム社会と政治
小松久男	中央アジア近代史
佐伯富	中国山西商人の研究
酒井憲二	日本語の史的研究
桜井由躬雄	ベトナム史の研究
佐竹昭廣	中世日本文学の史的研究
佐藤次高	西アジア・イスラム史
滋賀秀三	中国法制史の通史的研究
蔀勇造	南アラビア古代史の研究
斯波義信	中国社会経済史
清水宏祐	セルジューク朝時代のイラン
志茂碩敏	13・4世紀モンゴル政権の中枢・中核について
新免康	東トルキスタン史の研究
杉山正明	モンゴル帝国史の研究
鈴木立子	元朝における社会経済史
妹尾達彦	中国古代・中世都市史研究
武田幸男	朝鮮古代・近世史の研究
立川武蔵	チベット密教教理の研究
田中時彦	日本の政治的近代化の研究
C. A. ダニエルス	西南中国・タイ文化圏の歴史研究
田村晃一	東北アジアの考古学
竺沙雅章	中国宗教社会史
千葉喪	宋代宮廷史
辻本裕成	中古・中世日本文学の研究
鶴見尚弘	明・清時代社会経済史の研究
枅尾武	和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究
土肥義和	西域出土漢文文書の研究
鳥海靖	日本近現代史
中嶋敏	宋代史
中野真麻理	中世日本文学の研究
中見立夫	清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
永田雄三	オスマン帝国社会経済史

研究員名	研究課題
永積洋子	日本近世対外交渉史
西田龍雄	チベット・ビルマ語派の研究
萩田博	ウルドゥー語学・文学
長谷川誠夫	宋代官僚制の研究
八尾師誠	20世紀初頭のイランにおける立憲革命
花田宇秋	正統カリフ・ウマイヤ朝史研究
林佳世子	オスマン朝期中東社会史
林俊雄	中央ユーラシア史・草原考古学
原實	インド古代文学の研究
深沢眞二	連歌・俳諧の研究
福田洋一	インド、チベットにおける仏教哲学・論理学
古屋昭弘	中国語の音韻史的研究
星實千代	現代チベット口語の研究
細谷良夫	清朝政治史
堀敏一	中国古代都市文化
本庄比佐子	1920-30年代中国政治史
松濤誠達	インド古代神話学
松丸道雄	殷周金文の研究
松村潤	東北アジア民族史
松本明	中国隋唐政治史
三浦徹	イスラム都市社会史の研究
御牧克己	チベット宗義書の研究
宮崎修多	近世近代漢詩文の研究
森安孝夫	古代ウイグル文書の研究
矢澤利彦	西洋人の見た中国事情
柳田征司	日本語の歴史的研究
柳田節子	宋代社会経済史研究
山内弘一	李朝史、朝鮮儒教
山口瑞鳳	チベット史、チベット語文法、チベット仏教
山崎元一	インド古代史
山根幸夫	明代政治史・文化史、近代中日関係史
吉田寅	中国塩業史の研究
吉田光男	朝鮮近世史
渡辺紘良	宋代社会史の研究
和田博徳	明清時代社会経済史の研究

研究員名	研　　究　　課　　題
和　田　恭　幸	仮名草子および近世通俗仏書の研究

◎平成14年度研究部運営委員会の開催

※平成14年度には研究新体制への移行問題を主要な議題として都合４回の研究部運営委員会が開催された。

第１回　平成14年５月17日（金）　　午後３：00～４：30

議題　（１）　平成13年度事業（費）の報告について
（２）　平成14年度事業計画・予算について
（３）　その他（承認・報告事項）

第２回　平成14年９月19日（木）　　午前10：30～12：00
平成15年度以降、文部科学省に対する研究部新体制における概算要求の具体案作成のための打合せ会

議題：東洋文庫研究部改革案について
（新体制における超域プロジェクト・基礎研究の企画案提出を求める）

第３回　平成14年10月４日（金）　　午後１：30～３：00
研究部（拡大）運営委員会

議題：平成15年度事業計画と研究体制の再編について
（東洋文庫研究員全員に対する参加要請のもとに「文部科学省補助金の来年度の見通し」と「研究体制の抜本的見直し」について意見を交換した。）

第４回　平成15年２月26日（水）　　午後３：00～４：30

議題　（１）　平成14年度事業費の経過報告および決算の見通しについて
（２）　平成15年度研究部体制の発足に伴う事業費の概算要求、組織および部屋割りの見直しについて
（３）　その他
（平成15年度研究新体制に伴う運営上の特例措置、具体的予算要求額、新研究班代表者の選定、新規研究員の委嘱、研究課題の設定と成果報告などにつき諮議した。）

Ⅳ 業 務 報 告

1．総 務 報 告

①会議事項

（理 事 会）

第317回　開催日　平成14年６月４日（火曜日）
　　出席者　斯波義信、石井米雄、神田信夫、佐藤次高、田仲一成、鶴見尚弘
　　中根千枝、西田龍雄、原　啓芳、若井恒雄
　　委任状　岩崎寛彌、草原克豪

第318回　開催日　平成14年６月４日（火曜日）
　　出席者　斯波義信、石井米雄、神田信夫、佐藤次高、田仲一成、鶴見尚弘
　　中根千枝、西田龍雄、原　啓芳、若井恒雄
　　委任状　岩崎寛彌、草原克豪

第319回　開催日　平成14年12月３日（火曜日）
　　出席者　斯波義信、原　啓芳、石井米雄、岩崎寛彌、神田信夫、草原克豪
　　佐藤次高、田仲一成、鶴見尚弘、中根千枝、若井恒雄

第320回　開催日　平成14年12月３日（火曜日）
　　出席者　斯波義信、原　啓芳、石井米雄、岩崎寛彌、神田信夫、草原克豪
　　佐藤次高、田仲一成、鶴見尚弘、中根千枝、若井恒雄

（評議員会）

第147回　開催日　平成14年６月４日（火曜日）
　　出席者　岡野　澄、岸本美緒、後藤　明、佐竹昭広、松村　潤
　　委任状　池端雪浦、佐々木毅、髙木丈太郎、長尾　真、前田充明、槇原　稔
　　間野英二

第148回　開催日　平成14年12月３日（火曜日）
　　出席者　岸本美緒、佐竹昭広、松村　潤

委任状　安西祐一郎、池端雪浦、岡野　澄、奥島孝康、後藤　明
佐々木毅、髙木丈太郎、長尾　真、前田充明、槇原　稔
間野英二

（東洋学連絡委員会）

前　期　開催日　平成14年５月21日（火曜日）
出席者　斯波義信（委員長）、尾崎　康、竺沙雅章、中嶋　敏、西田龍雄
間野英二、森本公誠
議　題　１．平成13年度財団法人東洋文庫事業報告について
２．平成14年度財団法人東洋文庫事業計画について
３．その他

後　期　開催日　平成14年11月26日（火曜日）
出席者　斯波義信（委員長）、尾崎　康、中嶋　敏、間野英二
議　題　１．平成14年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
２．平成15年度財団法人東洋文庫事業計画案について
３．研究部研究体制の再編について
４．その他

②総務・広報事項

・平成14年４月１日　下記各種委員会を設置いたしました。

１．データベース小委員会及びホームページ小委員会
文献データベース化の促進と検索利便の向上並びにホームページ広報の充実を目的として、従来の電算化委員会の下部に上記２つの小委員会が設置されました。

２．センター終結準備委員会
平成15年３月末終結内定の附置ユネスコ東アジア文化研究センターの円滑な終結処理の準備と促進を目的として委員会が設置されました。（平成15年３月末センターの円満終結により同日付にて委員会解散。）

３．80周年記念事業推進委員会
平成16年11月19日　当文庫は財団創立80周年を迎えます。記念事業の準備・推進を目的として委員会が設置されました。「80年史の編纂・刊行」「特別記念展の開催」「東洋学講座の特別記念開催」などを柱として前広な準備を開始しております。

・平成14年11月11日　史学会第100回大会協賛展示会を当文庫で開催いたしました。

・平成15年３月４日　附置ユネスコ東アジア文化研究センターの終幕パーティを虎ノ

門・霞山会館にて合同開催いたしました。

③設備・営繕事項

・特記される大口案件はありませんでしたが、主に下記増設・改装等を実施いたしました。

1．閲覧室内の書架増設及びブックディテクション装置の設置

2．研究部新研究体制に向けた移動・再配置諸工事

3．附置ユネスコ東アジア文化研究センター跡スペースの改装諸工事

2．人　事　報　告

i．役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
14.6.4	評議員	鳥居泰彦	退任	
〃	〃	安西祐一郎	就任	
〃	専務理事	原啓芳	〃	
14.12.3	監事	茅野静逸	退任	
〃	〃	東條和彦	就任	

ii．東洋学連絡委員会委員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
14.11.11	委員	江上波夫	逝去	

iii．職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
14.4.1	司書	大沼宜規	就任	国立国会図書館より出向
〃	研究員（兼任）	内山雅生	〃	
〃	〃	久保亨	〃	
〃	〃	福田洋一	〃	
14.6.4	総務部長（兼務）	原啓芳	委嘱	
14.11.4	研究員（兼任）	田中正俊	逝去	
15.3.31	研究員（奨励）	高瀬奈津子	退任	

3．会　計　報　告

財団法人東洋文庫平成14年度収支計算書

（自　平成14年４月１日
至　平成15年３月31日）

（単位：千円）

支出の部		収入の部	
項目	金額	項目	金額
経常費	131,424	科学研究費補助金	46,000
人件費	101,873	維持会費収入	35,200
事務費	29,551	寄付金収入	27,304
事業費	94,063	財産収入	79,101
Ⅰ 調査研究費	15,093	研究活動収入	8,013
Ⅱ 研究資料収集費	19,867	雑収入	619
Ⅲ 研究資料出版費	9,612	建物等修繕積立預金取崩収入	5,000
Ⅳ 普及活動費	1,428	運営調整積立預金取崩収入	24,250
Ⅴ 学術情報提供費	48,063		
支出合計	225,487	収入合計	225,487

（注）上表は一般会計に関するものである。

なお、平成15年３月、附置ユネスコ東アジア文化研究センター終結整理金29,000千円を事業費から拠出、負担いたしました（平成14年６月４日開催第317回理事会付議済）。上表のⅤ学術情報提供費に含まれております。

財団法人東洋文庫平成14年度貸借対照表（総括表）

（平成15年３月31日現在）　　（単位：千円）

資産の部		負債及び正味財産合計	
科目	金額	科目	金額
流動資産	16,763	流動負債	4,260
固定資産	5,301,914	固定負債	60,379
（1）基本財産	4,941,948	負債合計	64,639
（2）その他の固定資産	359,966		
		正味財産	5,254,038
資産合計	5,318,677	負債及び正味財産合計	5,318,677

（注）一般会計のほか、特別会計・特定会計を含む。

V 役 職 員 名 簿

平成15年３月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

１．役 員

役職名	氏名	現職
理事長	斯波義信	東洋文庫理事長
専務理事	原啓芳	東洋文庫専務理事
理事	石井米雄	神田外語大学学長 京都大学名誉教授
〃	岩崎寛弥	東山農事株式会社社長
〃	神田信夫	明治大学名誉教授
〃	草原克豪	拓殖大学副学長
〃	佐藤次高	東京大学教授
〃	田仲一成	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	鶴見尚弘	山梨県立女子短期大学学長 横浜国立大学名誉教授
〃	中根千枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	西田龍雄	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	若井恒雄	株式会社東京三菱銀行相談役
監事	種田公二	株式会社パスコ前監査役
〃	東條和彦	三菱金曜会事務局長
評議員	安西祐一郎	慶應義塾塾長
〃	池端雪浦	東京外国語大学学長
〃	岡野澄	東京工業高等専門学校名誉教授
〃	奥島孝康	早稲田大学前総長
〃	岸本美緒	東京大学教授
〃	後藤明	東洋大学教授
〃	佐々木毅	東京大学学長

役職名	氏名	現職
評議員	佐竹昭広	京都大学名誉教授
〃	髙木丈太郎	三菱地所株式会社相談役
〃	長尾真	京都大学学長
〃	前田充明	城西大学名誉教授
〃	槇原稔	三菱商事株式会社会長
〃	松村潤	日本大学名誉教授
〃	間野英二	京都大学教授

2．東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	斯波義信	東洋文庫理事長
委員	尾崎康	帝京大学教授
〃	興膳宏	京都国立博物館館長
		京都大学名誉教授
〃	竺沙雅章	大谷大学教授
		京都大学名誉教授
〃	中嶋敏	東京教育大学名誉教授
〃	西田龍雄	日本学士院会員
		京都大学名誉教授
〃	日比野丈夫	京都大学名誉教授
〃	間野英二	京都大学教授
〃	森本公誠	東大寺上院院主、東大寺学園理事長

3．名誉研究員

氏名	現職
W.T.デ・バリイ	コロンビア大学教授
J.ジエルネ	コレイジュ・ド・フランス教授　フランス学士院会員
H.フランケ	ミュンヘン大学教授

4．職　員

（平成15年３月31日現在）

部　名	職　　名	氏　　名
総務部	部　　長	原　　啓　芳（専務理事兼務）
〃	課　　長	光　田　憲　雄
〃	会計係長	金　子　祐　子
〃	参　　事	中　沢　元　幸　橋　伸　子　藤　村　由美子 長谷川　茂　広
〃	常勤嘱託	秋　葉　喜　八

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	部　　長	佐　藤　次　高	東京大学教授
〃	研究員（兼任）	荒　　松　雄	東京大学名誉教授
〃	〃	飯　尾　秀　幸	専修大学教授
〃	〃	飯　島　武　次	駒沢大学教授
〃	〃	池　田　　温	創価大学特任教授
〃	〃	池　端　雪　浦	東京外国語大学学長
〃	〃	石　井　米　雄	神田外語大学学長
〃	〃	石　塚　晴　通	北海道大学教授
〃	〃	石　橋　崇　雄	国士館大学教授
〃	〃	市　古　宙　三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	井　上　和　枝	鹿児島国際大学助教授
〃	〃	上　野　英　二	成城大学教授
〃	〃	内　山　雅　生	宇都宮大学教授
〃	〃	宇都木　　章	青山学院大学名誉教授
〃	〃	梅　田　博　之	麗澤大学教授
〃	〃	梅　村　　坦	中央大学教授
〃	〃	海　野　一　隆	大阪大学名誉教授
〃	〃	大　江　孝　男	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	太　田　幸　男	東京学芸大学教授
〃	〃	大　谷　俊　太	奈良女子大学助教授
〃	〃	岡　田　英　弘	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	小　名　康　之	青山学院大学教授
〃	〃	風　間　喜代三	東京大学名誉教授
〃	〃	糟　谷　憲　一	一橋大学教授
〃	〃	片　山　章　雄	東海大学助教授

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	研究員(兼任)	加藤直人	日本大学教授
〃	〃	辛島　昇	大正大学教授
〃	〃	川崎信定	東洋大学教授
〃	〃	神田信夫	明治大学名誉教授
〃	〃	菊池英夫	北海道大学元教授
〃	〃	岸本美緒	東京大学教授
〃	〃	北村　甫	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	草野　靖	福岡大学教授
〃	〃	久保　亨	信州大学教授
〃	〃	窪添慶文	お茶の水女子大学教授
〃	〃	C.A.ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	熊本　裕	東京大学教授
〃	〃	気賀澤保規	明治大学教授
〃	〃	後藤　明	東洋大学教授
〃	〃	小松久男	東京大学教授
〃	〃	佐伯　冨	京都大学名誉教授
〃	〃	酒井憲二	調布学園短期大学名誉教授
〃	〃	桜井由躬雄	東京大学教授
〃	〃	佐竹昭広	京都大学名誉教授
〃	〃	滋賀秀三	東京大学名誉教授
〃	〃	蔀　勇造	東京大学教授
〃	〃	斯波義信	東洋文庫理事長
〃	〃	清水宏祐	九州大学教授
〃	〃	志茂碩敏	前国立国会図書館支部東洋文庫前司書
〃	〃	新免　康	中央大学助教授
〃	〃	杉山正明	京都大学教授
〃	〃	鈴木立子	愛知大学教授
〃	〃	妹尾達彦	中央大学教授
〃	〃	武田幸男	岐阜聖徳学園大学教授
〃	〃	立川武蔵	国立民族学博物館教授
〃	〃	田中時彦	東海大学名誉教授
〃	〃	田村晃一	青山学院大学名誉教授
〃	〃	竺沙雅章	京都大学名誉教授

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	研究員(兼任)	千　葉　　殃	桐朋学園大学名誉理事長
〃	〃	辻　本　裕　成	南山大学助教授
〃	〃	鶴　見　尚　弘	山梨県立女子短期大学学長
〃	〃	杤　尾　　武	成城大学教授
〃	〃	土　肥　義　和	国学院大学教授
〃	〃	鳥　海　　靖	中央大学教授
〃	〃	中　嶋　　敏	東京教育大学名誉教授
〃	〃	永　田　雄　三	明治大学教授
〃	〃	永　積　洋　子	東京大学元教授
〃	〃	中　野　真麻理	国文学研究資料館助手
〃	〃	中　見　立　夫	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	西　田　龍　雄	京都大学名誉教授
〃	〃	萩　田　　博	東京外国語大学専任講師
〃	〃	長谷川　誠　夫	慶応義塾大学講師
〃	〃	八尾師　　誠	東京外国語大学教授
〃	〃	花　田　宇　秋	明治学院大学教授
〃	〃	林　　佳世子	東京外国語大学助教授
〃	〃	林　　俊　雄	創価大学教授
〃	〃	原　　實	東京大学名誉教授
〃	〃	深　沢　眞　二	和光大学助教授
〃	〃	福　田　洋　一	大谷大学助教授
〃	〃	古　屋　昭　弘	早稲田大学教授
〃	〃	星　　実千代	東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所研究員
〃	〃	細　谷　良　夫	東北学院大学教授
〃	〃	堀　　敏　一	明治大学名誉教授
〃	〃	本　庄　比佐子	東洋文庫前専任研究員
〃	〃	松　濤　誠　達	大正大学学長
〃	〃	松　丸　道　雄	東京大学名誉教授
〃	〃	松　村　　潤	日本大学名誉教授
〃	〃	三　浦　　徹	お茶の水女子大学教授
〃	〃	御　牧　克　己	京都大学教授
〃	〃	宮　崎　修　多	成城大学助教授

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	研究員(兼任)	森　安　孝　夫	大阪大学教授
〃	〃	矢　沢　利　彦	埼玉大学名誉教授
〃	〃	柳　田　征　司	奈良女子大学前教授
〃	〃	柳　田　節　子	学習院大学元教授
〃	〃	山　内　弘　一	上智大学教授
〃	〃	山　口　瑞　鳳	東京大学名誉教授
〃	〃	山　崎　元　一	国学院大学教授
〃	〃	山　根　幸　夫	東京女子大学名誉教授
〃	〃	吉　田　　寅	立正大学元教授
〃	〃	吉　田　光　男	東京大学教授
〃	〃	渡　辺　紘　良	独協医科大学教授
〃	〃	和　田　博　徳	慶応大学名誉教授
〃	〃	和　田　恭　幸	国文学研究資料館助手
〃	研究員(専任)	松　本　　明	

部　名	職　　名	氏　　名	
図書部	部　　長	田　仲　一　成	
〃	東洋文庫長	井　坂　清　信※	
〃	文庫長補佐	西　薗　一　男※	
〃	閲覧係長	中善寺　　慎※	
〃	副　主　査	牧　　武※	辺　見　由起子※
〃	司　　書	桜　井　　徹	山　村　義　照
		沢　崎　京　子※	篠　崎　陽　子
		関　　さやか※	瀧　下　彩　子
		大　沼　宜　規※	

(※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

5．臨時職員

部　名	氏　　名
総務部	豊田典子
研究部	現銀谷史明　現銀谷美恵　小羽田誠治　佐藤直子　澤井一彰 清水裕子　信賀加奈子　高村武幸　中澤　中　蛭田展充 深澤貴行　福地智子　森田健太郎
図書部	青木雅浩　岩見　隆　上田直美　大河原洋子　梶山智史　加藤良輔 呉　吉煥　塩谷哲史　清水一枝　清水敏江　清水保尚　臧　世俊 高木雅弘　高田まゆみ　谷家章子　辻　明日香　露口哲也　寺西澄子 外川和雅　野田　仁　橋爪　烈　深野明子　深見和子　前島佳孝 目黒　輝　熱　比燕

Ⅵ　財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概　要】　東アジアを中心とするアジア諸地域の人文・社会科学の分野に関する調査研究を、多角的な視点から国際的・学際的・継続的に実施し、かつインフォメーション・センターとして研究情報の交換、研究者の交流の促進、および研究成果の普及を図る。

1．ユネスコ協力事業

（1）「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる「中央アジア文明史」シリーズについて、本部から編集委員の委嘱を受けた梅村坦氏（専門委員、中央大学教授）を中心として組織した「中央アジア文明史編集協力委員会」（委員９名）を通じて、同シリーズ第５巻・第６巻（16世紀－20世紀）の編集に協力した。

（2）「日本の哲学・思想」情報提供

日本ユネスコ国内委員会編『日本の思想』シリーズ全11巻（英文“Philosophical Studies of Japan”日本学術振興会 1959－1976年刊）について、インターネット上で和文・英文によって紹介するため、ウェブサイト（ホームページ）を東洋文庫のウェブサイト内で公開した。

2．学術情報事業 －アジア・北アフリカ人文・社会科学関係－

1．Asian Research Trends の編集・出版

英文の定期刊行物 “Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review" の編集・出版を行なった。本年度は No.13（2003）を刊行し、世界各地域におけるアジア研究の動向を中心に掲載した。

2．国内外研究情報の収集

（1） 国内研究情報の収集

いわゆる「東洋学」の関連研究分野における研究機関のネットワーク形成を推進するため、主要なアジア研究機関、学会、および日本学術会議等との間に、相互の訪問・通信等による研究情報の交換を行なった。また、研究機関が発行する要覧・紀要等を収集した。

（2） 国外研究情報の収集

A．国外研究機関の訪問調査

本年度調査国の研究機関、研究状況等について資料を収集し、アジア関係研究機関の訪問調査を実施した。その対象国・派遣調査員・調査期間は下記の通りである。

大 韓 民 国

藤井和夫（センター運営委員、日野市教育委員会生涯学習部生涯学習課副主幹）
5月1日－5月12日

本調査は、韓国に関する継続調査として行なわれ、ソウル、光州、大邱、大田所在の研究機関を訪問した。あわせて、国立中央博物館において「『朝鮮植民地期文化財調査報告書』の編集・出版」（IV－1－(2)）事業のための調査研究を行なった。

大 韓 民 国

藤井和夫（前　出）　10月31日－11月10日

田才雅彦（センター共同研究員、北海道教育庁生涯学習部文化課調査班主査）
10月31日－11月8日

本調査は、韓国に関する継続調査として行なわれ、済州道、光州、羅州、全州、ソウル所在の研究機関・遺跡等を訪問した。あわせて、ソウルおよび公州において「『朝鮮植民地期文化財調査報告書』の編集・出版」（IV－1－(2)）事業のための調査研究を行なった。

B．講演会・研究会の開催

諸外国の研究情報を得、研究者との交流を図るため、下記の研究会の開催に協力した。

李　康　承　大韓民国　忠南大学校文科大学考古学科教授

主　題：忠南地方の最近の考古学的調査について

期　日：8月4日（日）

会　場：青山学院大学校友会室
主　催：東北亜細亜考古学研究会
尚　暁　波　中華人民共和国　遼寧省朝陽市博物館館長
主　題：3—6世紀東北アジアの「馬具文化圏」
期　日：10月22日（火）
会　場：青山学院大学総研ビル会議室
主　催：東北亜細亜考古学研究会

C．外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

センターを訪れ、またはセンターが情報提供等の便宜供与を行なった外国研究者は下記の通りである。

Brij Tankha	Reader in Modern Japanese History, Dept. of Chinese & Japanese Studies, Univ. of Delhi, India
Momoko, Yokoi	教育省語学センター（MOELC）講師，Singapore
Emily M.Hill	Assistant Professor, Dept. of History, Queen's Univ., Kingston, Ontario, Canada
李　文　基	慶北大学校人文大学歴史学科教授、大邱、韓国
張　東　翼	慶北大学校師範大学歴史科教授、大邱、韓国
曹　永　和	中央研究院院士；国立台湾大学文学院歴史学系兼任教授、台北、台湾
Skulason, Pall	Rector, Univ. of Iceland, Reykjavik, Iceland
Boussemart, Anthony	Ecole française d' Extrême-Orient Bibliothèque, Paris, France

D．フランス国立極東学院東京支部との協力

財団法人東洋文庫内に平成6年4月に設置されたフランス国立極東学院東京支部との協力関係を確立するため、相互の交流を推進した。東京支部代表は同学院研究員ジャン—フランソワ・スーム氏である。

（3）　海外専門家の招聘

学術交流を目的として海外の専門家を下記の通り招聘した。

李　康　承　　大韓民国、忠南大学校文科大学考古学科教授

7月18日—8月5日　韓国考古学・歴史学に関する日韓の相互理解をはかるため招聘した。東京および福岡、北海道、宮城・山形・福島の各県において遺跡・博物館等の視察、研究交流を行なった。

裴　躍　軍　　中華人民共和国、遼寧省鉄嶺博物館副館長

7月6日—7月12日　日本考古学・博物館の調査研究のために来日中の同氏を、

東北アジア考古学・歴史学に関する日中の相互理解および日本考古学・歴史学に関する情報交換を行なうため招聘した。京都・滋賀・奈良・大阪の各府県において遺跡・博物館等の視察、研究交流を行なった。

尚　暁　波　　中華人民共和国、遼寧省朝陽市博物館館長

10月22日—10月23日　龍谷大学の招聘により来日中の同氏を、東北アジア考古学・歴史学に関する日中の相互理解および日本考古学・歴史学に関する情報交換を行なうため招聘した。東京において博物館等の視察、研究交流を行なった。

3．コンピュータネットワーク事業

1．研究情報データベースの作成

(1)　国内研究者ディレクトリの編集・出版

研究者名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成を行ない、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。情報はすべてコンピュータに入力し、データベース化している。対象分野は、①アジア歴史学、②アジア言語文学、③印度学仏教学、④中国学、⑤韓国・朝鮮学である。

(2)　国内研究文献目録の編集・出版

研究文献目録の編集を進めるため、資料の収集を行なった。情報はすべてコンピュータに入力し、データベース化している。対象分野は、①中央アジア研究文献、②中東イスラーム研究文献である。

2．コンピュータネットワークの形成

(1)　東洋文庫ホームページによる情報の提供

同ホームページにおいて、下記の研究文献目録のデータベースを公開した。

A「日本における中央アジア関係研究文献目録」

B「日本における中東・イスラーム研究文献目録」

(2)　国立情報学研究所への情報の提供

国立情報学研究所の情報検索サービス（NACSIS-IR）に下記の研究文献目録および研究者ディレクトリのデータを提供した。

A「日本における中央アジア関係研究文献目録」
B「日本における中東・イスラーム研究文献目録」
C「日本におけるアジア歴史研究者ディレクトリ」
D「日本における印度学仏教学研究者ディレクトリ」
7月19日に上記のうちCとDのデータ更新した。また、3月10日に上記のうちAとBのデータを更新した。

4．重要文献の研究・保存事業

－アジア重要文化財(文献)の研究・保存－

1．アジア史料の研究・保存

(1)「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集・出版

フランス国立極東学院（ＥＦＥＯ）所蔵の、ベトナム漢文史料『国朝處置萬象事宜録』を写真複製し、原典の歴史学的研究を行った。本書は、 19世紀初頭のタイ・ラオス外交に関するベトナム漢文史料『国朝處置萬象事宜録』鈔本２巻の本文を英訳し、解説と注釈とを加えたものである。注釈者は、マユリ・ガオシヴァトゥン氏およびプイパン・ガオシヴァトゥン氏である。また、ベトナム文化、とくに印刷技術に関する史料の調査研究を実施した。

(2)「朝鮮植民地期文化財調査報告書」の編集・出版

同書の編集を行ない、「朝鮮古蹟研究会遺稿」Ⅱ、Ⅲとして刊行した。本書は朝鮮総督府時代に実施された文化遺跡等の調査のうち未報告の資料をまとめたものである。編著者は、有光教一高麗美術館研究所所長・京都大学名誉教授ならびに藤井和夫実践女子大学講師である。

(3) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及

5．業　務　報　告

A．運営委員会・顧問会議

運営委員会

前　期　開　催　日　平成14年５月21日（火）　10時30分－11時20分
　　場　　所　東洋文庫３階会議室
　　出席委員　10名　　委任状８名
　　報　　告　１.顧問の委嘱について
　　２.参与の委嘱について
　　３.運営委員の委嘱について
　　議　　題　１.平成13年度事業報告及び決算報告について
　　２.平成14年度事業計画案及び収支予算案について
　　３.財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センターの終結方針について

後　期　開　催　日　平成14年11月26日（火）　10時30分－11時25分
　　場　　所　東洋文庫３階会議室
　　出席委員　７名　　委任状９名
　　報　　告　１.顧問の委嘱について
　　議　　題　１.平成14年度事業中間報告及び収支状況報告について
　　２.財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センターの終結方針について

顧問会議

開　催　日　平成14年５月21日（火）　10時30分－11時20分
場　　所　東洋文庫３階会議室
出席顧問　委任状４名
報　　告　１.顧問の委嘱について
２.参与の委嘱について
３.運営委員の委嘱について
議　　題　１.平成13年度事業報告及び決算報告について
２.平成14年度事業計画案及び収支予算案について
３.財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センターの終結方針について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	現職
14.4.1	運営委員	田中　明彦	就任	東京大学東洋文化研究所所長
〃	〃	田中　耕治	〃	京都大学東南アジア研究センター所長
7.1	顧問	岡野　澄	再任	東京工業高等専門学校名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
〃	参与	長尾　雅人	〃	日本学士院会員、京都大学名誉教授
〃	運営委員	藤井　和夫	〃	実践女子大学講師
7.15	〃	草場　宗春	退任	財団法人アジア文化センター理事長
8.1	顧問	白川　哲久	〃	文部科学省国際統括官
12.27	〃	永野　博	就任	文部科学省国際統括官
15.3.31	所長	石井　米雄	退任	神田外語大学学長、京都大学名誉教授、財団法人東洋文庫理事
〃	顧問	岡野　澄	〃	東京工業高等専門学校名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
〃	〃	永野　博	〃	文部科学省国際統轄官
〃	〃	平山　郁夫	〃	日本ユネスコ国内委員会会長
〃	〃	藤井　宏昭	〃	国際交流基金理事長
〃	〃	前田　充明	〃	財団法人国際学友会理事、城西大学名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
〃	参与	長尾　雅人	〃	日本学士院会員、京都大学名誉教授
〃	運営委員	池端　雪浦	〃	東京外国語大学学長
〃	〃	石毛　直道	〃	国立民族学博物館館長
〃	〃	加藤　友康	〃	東京大学史料編纂所所長
〃	〃	辛島　昇	〃	大正大学教授、東京大学名誉教授
〃	〃	阪上　孝	〃	京都大学人文科学研究所所長
〃	〃	佐々木高明	〃	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事長、国立民族学博物館名誉教授
〃	〃	佐藤　次高	〃	東京大学教授、財団法人東洋文庫理事
〃	〃	田中　明彦	〃	東京大学東洋文化研究所所長
〃	〃	田中　耕司	〃	京都大学東南アジア研究センター所長
〃	〃	田仲　一成	〃	日本学士院会員、財団法人東洋文庫理事
〃	〃	竺沙　雅章	〃	京都大学名誉教授
〃	〃	戸川　芳郎	〃	二松学舎大学教授

年 月 日	役 職 名	氏　　名	区分	現　　職
〃	〃	永井　愼也	〃	国際交流基金専務理事
〃	〃	中根　千枝	〃	日本学士院会員、財団法人東洋文庫理事
〃	〃	藤井　和夫	〃	実践女子大学講師
〃	〃	宮崎　恒二	〃	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
〃	〃	山崎　元一	〃	國學院大学教授
〃	〃	山澤　逸平	〃	日本貿易振興会アジア経済研究所所長

C．職員異動

年 月 日	役 職 名	氏　　名	区分	備　　考
15. 3 .31	調査外事室長	大井　　剛	退職	
〃	庶務会計室長	飯田　隆子	〃	
〃	研 究 員	設楽　靖子	〃	
〃	研 究 員	近藤　敦子	〃	
〃	参　　事	坂本　葉子	〃	
〃	専 門 員	ジャン・ウィズナム	〃	

D．共同研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備　　考
15. 3 .31	共同研究員	石丸　由美	退任	
〃	〃	徐　　光輝	〃	
〃	〃	田才　雅彦	〃	
〃	〃	高松　洋一	〃	
〃	〃	十倉　桐子	〃	
〃	〃	松尾有里子	〃	
〃	〃	三山　　陵	〃	

E．会計報告

平成14年度　ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

（平成15年３月31日現在）

支出の部		収入の部	
科目	金額（千円）	科目	金額（千円）
事業費	100,553	国庫補助金	69,800
ユネスコ協力事業費	889	財産収入	0
学術情報事業費	11,701	雑収入	30,753
コンピュータネットワーク事業費	4,124		
重要文献の保存・普及事業費	9,080		
人件費	73,630		
事務費	1,129		
計	100,553	計	100,553

6．役　職　員　名　簿

平成15年３月31日現在の役職員は下記のとおりである。
［注］Ｅは ex officio（官職指定）。

A．役　　員

役職名	氏　　名		現　　職
所　　長	石　井　米　雄		神田外語大学学長、京都大学名誉教授、財団法人　東洋文庫理事
顧　　問	岡　野　　澄		東京工業高等専門学校名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
〃	永　野　　博	E	文部科学省国際統轄官
〃	平　山　郁　夫	E	日本ユネスコ国内委員会会長
〃	藤　井　宏　昭	E	国際交流基金理事長
〃	前　田　充　明		財団法人国際学友会理事、城西大学名誉教授、財団法人東洋文庫評議員
参　　与	長　尾　雅　人		日本学士院会員、京都大学名誉教授
運営委員	池　端　雪　浦		東京外国語大学学長
〃	石　毛　直　道	E	国立民族学博物館長
〃	加　藤　友　康	E	東京大学史料編纂所所長
〃	辛　島　　昇		大正大学教授、東京大学名誉教授
〃	阪　上　　孝	E	京都大学人文科学研究所所長
〃	佐々木　高　明		財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事長、国立民族学博物館名誉教授
〃	佐　藤　次　高		東京大学教授、財団法人東洋文庫理事
〃	田　中　明　彦	E	東京大学東洋文化研究所所長
〃	田　中　耕　司	E	京都大学東南アジア研究センター所長
〃	田　仲　一　成		日本学士院会員、財団法人東洋文庫理事
〃	竺　沙　雅　章		京都大学名誉教授
〃	戸　川　芳　郎		二松學舍大学教授
〃	永　井　愼　也	E	国際交流基金専務理事
〃	中　根　千　枝		日本学士院会員、財団法人東洋文庫理事
〃	藤　井　和　夫		実践女子大学講師

役職名	氏　名		現　職
運営委員	宮崎恒二	E	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
	山崎元一		國學院大學文学部教授
	山澤逸平	E	日本貿易振興会アジア経済研究所所所長長

B．職　員

室　名	職　名	氏　名
調査外事室	室　長	大井　剛
	研究員	近藤敦子
普及室	研究員	設楽靖子
	参　事	坂本葉子
庶務会計室	室　長	飯田隆子
外国人専門員		John Wisnom

C．共同研究員

氏　名	現　職
石丸由美	慶應義塾大学非常勤講師
徐　光輝	龍谷大学国際文化学部助教授
田才雅彦	北海道教育庁生涯学習部文化課調査班主査
高松洋一	東京都立大学人文学部非常勤講師
十倉桐子	
松尾有里子	
三山　陵	東洋美術学校中国水墨画科講師

D．臨時職員

平成14年４月１日から平成15年３月31日までの間に在籍した臨時職員は下記のとおりである。

宇野陽子、木村暁、熊倉和歌子、倉本尚徳、島谷泰子、趙聖九、高田ひさ子、高田まゆみ、中島祥子、西田暢子、藤波伸嘉、益井岳樹

財団法人 東洋文庫年報 平成14年度

平成15年9月25日 発行
発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫
斯波義信
印刷所 株式会社 ディグ
発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫